

iCOT Ba

2022

愛知県立大学グローバル実践教育推進室 年報

第 10 号

2023(令和5)年3月
愛知県立大学

i C T B a

2 0 2 2

愛知県立大学グローバル実践教育推進室 年報

第 10 号

2023(令和5)年3月
愛知県立大学

目次

Here we go!	1
1 グローバル実践教育と iCoToBa	3
1.1 グローバル実践教育プログラム.....	3
1.2 グローバル実践教育プログラム成果発表会.....	3
1.3 iCoToBa における学習支援	5
2 iCoToBa での語学教育	7
2.1 iCoToBa 開講講座一覧	7
2.2 講座内容.....	10
2.2.1 留学前準備講座.....	10
2.2.2 英語コミュニケーション講座.....	16
2.2.3 地域コミュニティ言語講座.....	20
2.2.4 語学検定試験対策講座.....	27
2.2.5 イベント・ワークショップ型講座.....	32
2.2.6 iContact（あいこんたくと）.....	35
2.2.7 海外大学の学生とのオンライン交流.....	42
3 留学報告会.....	43
4 グローバルセミナー.....	44
5 iCoToBa のイベント	54
6 外部・地域との連携事業.....	57
7 広報活動.....	59
7.1 iCoToBa 公式 Web サイトでの発信	59
7.2 SNS での発信（Facebook・Instagram）.....	60
8 iCoToBa 学部・学科別利用者一覧	64
9 グローバル実践教育推進室会議.....	65
10 グローバル実践教育推進室.....	66

Here we go!

梶原 克教

グローバル実践教育推進室長・教養教育センター長

2022 年度は新たな光の兆しが見える年でした。コロナウイルス感染症の影響で、これまで多言語学習センター (iCoToBa) における対面での学習機会の多くが失われてきましたが、本年度は、2 年ぶりに iCoToBa が活気を呈してきました。なによりもまず、留学生たちが戻ってきました。2 年前に比べるとまだ少なくはありますが、留学生による iContact を中心に、本学学生と留学生とが複数言語を用いながら互いの言語学習のサポートになるという、良いサイクルが復活しました。また、学生とネイティブ教員との iContact も対面でおこなわれ、学生たちは授業時間外にそれぞれの意欲に応じて外国語学習に励みました。

来年度より実施される “iCoToBa Nexus” という新プロジェクトについても、内容が固まりました。地域貢献と発信型教育を目指す同プロジェクトは、ふたつの軸からなります。ひとつは、大学院のコミュニティ通訳学コースと連携し、災害時を含む公共サービスにおける実践的な通訳訓練をおこなうことを目的としたプログラムです。もうひとつは、同時代的なメディアを利用して、地域社会の課題解決を提案するメディア・プロダクションをおこなうプログラムです。後者のプログラムの中心となっているブレット・ハック先生は、本年度にそのプログラムの試行として、愛知県政 150 年記念と連動した「県大史」多言語ビデオ作成チームを結成し、学生とともに動画作成活動に力を注いでくれました。ハック先生は、本年度より専任教員として本学に迎え入れられ、任期付教員時代にもまして、大車輪の活躍を見せてくれており、来年度からの “iCoToBa Nexus” プロジェクトにも大いに期待できます。



適応力が減退した教員としては、この 2 年のプランクをどう回復するかを悩ませていましたが、学生たちはそんなことはどこ吹く風と、自然に日常を取り戻し、iCoToBa を思う存分に活用しはじめています。そんな学生たちの姿を見ながら、2023 年度に向けて当室は明るい展望を抱いています。新時代の iCoToBa に、どうぞご期待ください。



1 グローバル実践教育と iCoToBa

2017 年 4 月に、グローバル実践教育推進室が設置され、「グローバル実践教育プログラム」および教育施設である iCoToBa(あいことば:多言語学習センター)の運営を行っている。

iCoToBa では、「グローバル実践教育プログラム」を推進するために多様な活動を行っている。具体的には、全学部生を対象とした外国語学習支援をはじめ、グローバル化が進む地域社会において、各学部の専門性を活かす場における外国人住民とのコミュニケーション能力の養成や多文化共生社会に必要な異文化理解、さまざまな情報を得るための実践的な英語能力の養成などが挙げられる。

以下、グローバル実践教育において、iCoToBa が果たす役割と、本年度の iCoToBa の取り組みについて述べる。

1.1 グローバル実践教育プログラム

2017 年度に始まった「グローバル実践教育プログラム(学部により 19~26 単位)」は、2021 年度から教養教育新カリキュラムと連動し、「県大世界あいち学マイスター制度・グローバル実践教育マイスター(全学部 20 単位)」として認定される。卒業時に獲得する知識とスキルは 8 つの分野に定められ、それぞれに科目が設置されている。

- A. 国際教養
- B. プレゼンテーションスキル
- C. 情報リテラシー
- D. 広義のコミュニケーション力
- E. 異文化適応能力
- F. 課題発見・解決力
- G. マネジメント能力
- H. 外国語能力



フィールドワークや PBL などのアクティブラーニングを取り入れ、他学部の専門科目を履修できるようにすることで、異なる専門性や背景知識を持った人と協力し課題を解決する機会が設けられており、実践的な学習そのものが異文化理解体験につながるよう工夫されている。(別表 1、2 参照)

1.2 グローバル実践教育プログラム成果発表会

2020 年度入学までの学生の「グローバル実践教育プログラム」修了要件の一つに、当該プログラムにかかわる学修や活動の成果発表がある。今年度の成果発表会は下記のとおり開催され、グローバル実践教育推進室室員の評価により、合格となった。

日時:2022 年 7 月 20 日(水)12:10~12:30(Teams で視聴可)

発表者:外国語学部国際関係学科 1 名(2022 年 9 月卒業生)

別表 1 グローバル実践教育プログラム

	開講科目	設置 単位	必修 単位
A・ 国際 教養	愛知の文化遺産	2	2
	日本の歴史と文化	2	
	アジアの歴史と文化	2	
	ヨーロッパの歴史と文化	2	2
	北アメリカの歴史と文化	2	
	中南米の歴史と文化	2	
	アフリカの歴史と文化	2	
	現代社会の諸問題	2	
	エリアスタディーズ総論	2	
B・ プレゼン テーション スキル	Intercultural Seminars in English (英語セミナー) *	4	2
	Seminários interculturais em português (ポルトガル語セミナー) *	4	
	Séminaires interculturels en français (フランス語セミナー) *	2	
	Seminarios interculturales en español (スペイン語セミナー) *	2	
	Interkulturelle Seminare Deutsch (ドイツ語セミナー) *	2	
	跨文化汉语研讨班 (中国語セミナー) *	2	
	県大教養ゼミナール	4	2
C・ 情報リテ ラシー	情報リテラシー	2	2
	メディア情報基礎	2	
	高度情報社会の理解	2	
	データサイエンスへの招待ー実践編	2	
D・ 広義の コミュニ ケーション 能力	多文化社会とコミュニケーション	2	2
	キャリア実践	2	
	日本語表現法	2	
E・ 異文化 適応能力	Global Vision Talks	2	2
	Japan Seen from Outside	2	
	Japan's Interactions with Other Cultures	2	
	教養外国語ショートプログラム	2	
	教養留学修得科目	6	
F・ 課題 発見・ 解決力	ものづくりの現状と課題	2	2
	グローバル社会の諸問題	2	
	いのちと防災の科学	2	
	県大エッセンシャル	2	
G・ マネジメ ント能力	インターンシップ実践	2	2
	キャリア展望ー生き抜く力ー	2	
H・ 外国語 能力	英語 II	4	2
	Intercultural Seminars in English (英語セミナー) *	4	
	ポルトガル語 I	4	
	ポルトガル語 II	4	
	Seminários interculturais em português (ポルトガル語セミナー) *	4	
	フランス語 I	4	
	フランス語 II	4	
	Séminaires interculturels en français (フランス語セミナー) *	2	
	スペイン語 I	4	
	スペイン語 II	4	
	Seminarios interculturales en español (スペイン語セミナー) *	2	
	ドイツ語 I	4	
	ドイツ語 II	4	
	Interkulturelle Seminare Deutsch (ドイツ語セミナー) *	2	
	中国語 I	4	
	中国語 II	4	
	跨文化汉语研讨班 (中国語セミナー) *	2	
	ロシア語 I	4	
	ロシア語 II	4	
	韓国朝鮮語 I	4	
	韓国朝鮮語 II	4	
	日本語 I	4	
	日本語 II	4	
合 計			20

注：同一科目を複数の科目群の必修単位に組み入れることはできません。

別表 2

外国語学部

	専攻外国語	第2外国語（教養教育外国語科目）
英語	TOEIC Listening & Reading Test 800 点以上	TOEIC Listening & Reading Test 730 点以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験 準1級以上	実用フランス語技能検定試験 3級以上
スペイン語	DELE B1 以上	DELE A1 以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 2級以上	ドイツ語技能検定試験 4級以上
中国語	中国語検定試験 2級以上	中国語検定試験 3級以上
ポルトガル語		外国語としてのポルトガル語検定試験 CIPLE 以上 または、「ポルトガル語Ⅱ」、「エクスプレス・ポルトガル語」で A 評価を 4 単位以上
ロシア語		ロシア語能力検定試験 4級以上 または、「ロシア語Ⅱ」で A 評価を 4 単位
韓国朝鮮語		ハングル能力検定試験 3級以上、または韓国語能力試験 3級以上
日本語		日本語能力検定試験 N1 合格

日本文化学部 教育福祉学部 看護学部 情報科学部（いずれか1言語について達成の必要有）

英語	TOEIC Listening & Reading Test 550 点以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験 4級以上 または、フランス語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
スペイン語	DELE A1 以上 または、スペイン語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 4級以上 または、ドイツ語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
中国語	中国語検定試験 4級以上または、中国語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
ポルトガル語	外国語としてのポルトガル語検定試験 CIPLE 以上 または、ポルトガル語Ⅰ、Ⅱ、エクスプレス・ポルトガル語で A 評価を 4 単位以上
ロシア語	ロシア語能力検定試験 4級以上 または、ロシア語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上
韓国朝鮮語	ハングル能力検定試験 5級以上または、韓国語能力試験 1級以上または、韓国朝鮮語Ⅰで A 評価を 4 単位
日本語	日本語能力検定試験 N1 合格（留学生対象） または日本語Ⅰ、Ⅱで A 評価を 4 単位以上

備考

注1：検定試験は、本学在籍中に受験したものに限る。

注2：TOEIC Listening & Reading Test については公開テスト、あるいは、本学で受験した IP テストに限る。

1.3 iCoToBa における学習支援

本学のグローバル実践教育を推進し、多文化共生社会で活躍できる力を身につけるために、iCoToBa では、以下のような外国語学習支援と異文化理解および異文化交流のための活動を行っている。

1. 外国語学習支援(第2章参照)

目的別、レベル別に5種類の語学講座(留学前準備講座、英語コミュニケーション講座、地域コミュニティ言語講座、語学検定試験対策講座、イベント・ワークショップ型講座)と、個別指

導を行う iContact (あいこんたくと)を開講している。それぞれの内容を表 1 に示す。

[表 1 iCoToBa における外国語学習支援]

講座名称	内容
留学前準備講座	留学に必要となるアカデミックスキルや、留学先の日常生活に必要な知識や会話能力を養成する講座
英語コミュニケーション講座	外国語を専門としない学生も受講しやすいように、CEFR の A1 レベルから C1 まで、多様なクラスを設定した講座
地域コミュニティ言語講座	愛知県を中心とする地域でニーズの高い外国語(ポルトガル語など)を中心に、外国にルーツを持つ人々への円滑な対応を目指す。専門職業分野にも特化した講座
語学検定対策講座	TOEIC、TOEFL、IELTS その他語学検定試験対策講座
イベント・ワークショップ型講座	学生主導のプロジェクトや「task-based learning」ワークショップで、教員と学生が協働する新しいタイプの講座
iContact	外国人教員(予約制)および留学生による個別指導

2. 留学報告会(第 3 章参照)

学生の留学への動機づけを目指した、留学体験談を聞くイベントである。週に一度、昼休みに開催している。

3. 国内外のグローバル・イシューを学ぶ、グローバルセミナー(第 4 章参照)

本学の専任教員を中心に、国内外のグローバルな文脈における研究や、研究に関連した活動、または、海外生活で得た経験などを紹介するセミナーである。全学教員の協力により、さまざまなテーマを取り上げている。1 回完結型で凝縮された内容を扱っており、学生のみならず教職員の参加も多い。

4. 異文化理解・交流イベント(第 5 章参照)

外国の文化を紹介・体験するイベントや、本学留学生や近隣機関との交流イベントなどを開催している。異文化を理解し、外国語でコミュニケーションする機会にもなっている。また、これらの多くのイベントは、企画段階から学生も参加しており、学生の自主性や行動力、マネジメント能力育成も目指している。

5. 地域社会と連携した学習機会の提供

地域産業界や自治体等と連携し、地域社会における課題解決を目指した学習機会や地域でのボランティア活動の機会を学生に提供している。

6. 学生活動の支援

学生の自主的な活動を貴重な学習経験と捉え、iCoToBa では、学生による企画立案・実施を推奨、サポートしている。現在では、学生の自主グループ iCoToBa Supporters Club (ISC) が組織化され、iCoToBa の運営に積極的に参画している。

2 iCoToBa での語学教育

iCoToBa では、外国語教育の目的として、①留学準備、②全学の英語力の強化、③多文化共生社会に必要となる専門性を活かすための外国語コミュニケーション能力養成に重点を置いている。このような目的のもと、2022 年度に iCoToBa では「留学前準備講座」、「英語コミュニケーション講座」、「地域コミュニティ言語講座」、「語学検定試験対策講座」、「イベント・ワークショップ型講座」が開講された。これらの講座に加えて、個別指導を行う iContact (あいこんたくと) も実施した。

iCoToBa の語学講座は、1 学期に 13 コマ行うものと、外国語を専攻としない学生にも学びやすいよう、5 コマで 1 セットや 10 コマで 1 セットのコースもある。さらに今年度は、新しく「短期渡航準備講座」として、「ウズベク語入門講座 (60 分×8 回)」を開講した。

また、愛知県をはじめとする東海地域は、外国人居住者が多い地域であり、私たちは社会のあらゆる場面で外国人とのコミュニケーション場面に遭遇する。そこで、2017 年度から、将来、看護師、介護士、教師、公務員などを目指す学生を対象に「地域コミュニティ言語講座」を開講している。2022 年度は、ポルトガル語、スペイン語、中国語、韓国朝鮮語、ベトナム語の講座を開講した。

以下、2022 年度に iCoToBa で開講した語学講座について報告する。

2.1 iCoToBa 開講講座一覧

2022 年度に iCoToBa で開講した語学講座を、表 2～5 に示す。表内の「レベル」はヨーロッパ言語共通参照枠 (Common European Framework of Reference: CEFR) によるものである。それぞれのレベルの目安は、A1: 初級、A2: 初中級、B1: 中級、B2: 中上級、C1: 上級、All Levels はレベルに関係なく受講できる科目である。

[表 2 2022 年度 iCoToBa 開講 留学前準備講座]

開講時期	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
前期	中級・上級ディスカッション：グローバルニューストーク	Intermediate / Advanced Discussion Class: Global News in English	B1-C1	6
前期	日本のポップカルチャーについて話しましょう: Youtuber 編	Let's Talk Japanese Pop Culture: Youtubers	B1 and up	5
前期	映画について話そう: 英語でゼミ型コース	Zemi-Style Course in English: Talking about Movies	B1-C1	16
後期	中級・上級ディスカッション：グローバルニューストーク	Intermediate / Advanced Discussion Class: Global News in English	B1-C1	6

後期	英語でゼミ型コース:日本と英語圏における「ジャンル」	Zemi-Style Course in English: Genres in Japan and Abroad	B1-C1	9
後期	英語で自分の海外旅行計画を立てよう!:英語と旅行をつなげる	Plan a Trip in English: Applying your English to your Travels	A1-B1	16
前期	フランスでの生活を始めましょう!	Allons en France !	A2-B2	5
後期	フランスでの生活を始めましょう!	Allons en France !	A2-B1	2
前期	スペイン語・DELE の準備をしよう!	¡Listos para el DELE!	A2-B2	23
後期	スペイン語・DELE B1 の準備をしよう!	¡Listos para el DELE B1!	B1	2
前期	ドイツ語・留学前準備講座	Vorbereitung auf das Auslandsstudium	A2	9
後期	ドイツ語・留学前準備講座	Vorbereitung auf das Auslandsstudium	A2	3
前期	中国事情を語る	留学之前話中国	A2-B1	3
後期	中国事情を語る	留学之前話中国	A2-B1	3
前期	初めてのウズベク語講座	Assalomu alaykum !	All Levels	15

[表 3 2022 年度 iCoToBa 開講 英語コミュニケーション講座]

開講時期	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
前期	生きた英語発音 新入生・初級生向けの楽しいコース	Pronunciation Profiles Fun Class for New Students and Beginners	A1-B1	10
前期	英会話:基本へ立ち返る	English: Back to Basics English Communication Workshop	A1-B1	39
前期	英語圏をツアー!	Tour the English-Speaking World	A1-B1	30
後期	初心者向けフリートーク: ボキャブラリーと簡単なディスカッション	Free Talk for Beginners: Vocabulary Drills and Simple Discussion	A1-B1	13

後期	メディア作成共働プロジェクト:「県大史」の学生作成チーム	University-Wide Media Project: Kendai's History	All Levels	6
後期	「マイペースで」トピックディスカッション	Relaxed Topic Discussions	A2-B2	8

[表 4 2022 年度 iCoToBa 開講 地域コミュニティ言語講座]

開講時期	科目名称	受講者数
前期	文化・生活分野スペイン語入門講座	7
後期	教育分野スペイン語入門講座	2
前期	文化・生活分野ポルトガル語入門講座	6
後期	文化・生活分野ポルトガル語入門講座	7
前期	文化・生活分野中国語入門講座	5
後期	文化・生活分野中国語入門講座	8
前期	観光・文化分野韓国朝鮮語講座超入門編	26
前期	観光・文化分野韓国朝鮮語講座初中級編	7
後期	観光・文化分野韓国朝鮮語講座超入門編	13
後期	観光・文化分野韓国朝鮮語講座初中級編	7
前期	観光・文化分野ベトナム語入門講座	4
後期	観光・文化分野ベトナム語入門講座	6

[表 5 2022 年度 iCoToBa 開講 語学検定試験対策講座]

開講時期	科目名称	受講者数
前期	TOEIC Clinic	15
前期	New TOEIC Reading Exercises	16
後期	TOEIC Strategies: 10-Week Course	16
後期	TOEIC Clinic (Separate Sessions)	7
後期	フランス語: ネイティブによる仏検 1 次試験対策講座	6
夏期	英語検定試験対策講座	30
春期	英語検定試験対策講座	12
後期	スペイン語: DELE B2 の準備をしよう!	4
後期	中国語: 中国語検定試験 3 級合格を目指そう!	10
後期	ドイツ語能力検定試験・CEFR 対策講座	2
後期	日本語能力検定試験対策講座(留学生対象)	5

2.2 講座内容

2.2.1 留学前準備講座

【英語】

Intermediate / Advanced Discussion Class: Global News in English

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Tuesday 2nd period

Objective:

- To improve listening comprehension and vocabulary for news in English.
- To make a habit of reading the news in English and thinking critically about events.
- To practice expressing and defending our opinions about controversial topics.

Course Contents:

This course had two lesson modules which were repeated through alternating weeks. The first style was listening oriented. The teacher played 2 to 3 news broadcasts, while highlighting important vocabulary. Students then wrote summaries of their understanding of the broadcast, which we checked as a class. Afterwards, the students had a discussion about the issues in those broadcasts. The second style was reading and discussion oriented. Students shared their chosen news articles on a Teams page and presented their view of the issues in class. After a Q&A session, they broke into groups and discussed the issues. In the final week of class, we reviewed our topics and discussed how to integrate critical news consumption into our lives.

End-of-Semester Review:

This news and global current events class will be part of the “iCoToBa Nexus” curriculum, so it is important to practice and refine the lesson design. I continued the same lesson structure from the previous year. Perhaps due to the time slot change to Tuesday morning, there were only four students in this course. In addition the age and educational status of the students was widely divergent: two first-years and two lifelong learners, one in a graduate program. Therefore, it was important to spend time at the beginning of each course conducting warm-up conversation exercises in order to generate common bases of experience and make them comfortable talking about more serious issues. However, the students were very receptive and got along well; these exercises were unnecessary after the first few weeks.

Let's Talk Japanese Pop Culture: Youtubers

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Tuesday 4th period

Objective:

- To critically analyze and discuss important aspects of contemporary media culture.
- To gain the language skills needed to critically discuss cultural issues in English.
- To build and carry out a course plan designed by the students themselves.

Course Contents:

This was the first full trial of the Nexus Contemporary Culture Laboratory style of courses which I first put into practice with the anime class last year. At the beginning of the course, an aspect of contemporary culture was presented, and the participating students designed their own course of study for it. For this course, the topic was Youtube and Youtuber culture. Alternating groups of students chose Youtube samples, which we watched and discussed in class. With the aid of specially designed planning materials and instructor guidance, students decided the textual samples, the weekly lesson structure and course schedule, assignments, and any language help. The main bulk of the course followed the students' designed structure while making small adjustments. A final discussion was also planned and carried out towards the end of the course. We reviewed what we had discussed and talked about how to critically view popular media in our future lives.

End-of-Semester Review:

I was able to improve upon the success of the first trials that I implemented last year. The main achievement was that I created an easy-to-follow system of planning documents for the course-design phase. Following them, the students could choose topics and highlight the target issues and questions for the course more efficiently than before. The documents also gave the students a stronger sense of their own opinions for the design of the course. We could follow the lesson plan in the course with only minor adjustments. In this class, six students joined, one of whom was an exchange student from France. The intercultural input that resulted from this dynamic was very positive. I will make a point of inviting exchange students to this kind of course from now on. In the final lesson we were able to summarize our findings in an informal manner; a future goal is to formalize the process of reflection so that the results of this "culture laboratory" can be more official and longlasting.

Zemi-Style Course in English: Talking about Movies

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Thursday 4th period

Objective:

- To become able to talk about films in English at an advanced level.
- To train academic skills via the medium of film studies.
- To connect films with their social and cultural origins.

Course Contents:

This class focused on making students able to participate in lectures and sections while studying abroad. Introductory topics on Film Studies formed the lecture material which students studied and responded to. The class format combined discussion sessions with academic skill-building and content knowledge. Weekly readings highlighted different words and concepts for talking about films critically. In the classes I lectured on the reading before a student-led discussion session. In addition to lectures and movie clips, we also watched and prepared responses to full English-language films.

End-of-Semester Review:

I have decided to remain with the style I tried in the previous year, that is, making in an EMI immersion course that mimics the style of a senior seminar in an American university. The CLIL/EAP format which I had been using in previous versions seems unnecessary, since it is now clear that students join this class because they want to learn and talk about movies, not to build language or academic skills in an instrumental manner. The course better serves these students by being an “on-campus immersion,” which will help them regardless of what stage of the study-abroad process they have achieved. As with last year, this version of the course was well-populated for an advanced class. Turning the course into a seminar style allowed me to pursue more challenging concepts and discussions, to which the students responded well, as seen in the final evaluations.

Intermediate / Advanced Discussion Class: Global News in English

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Thursday 2nd period

Objective:

- To improve listening comprehension and vocabulary for news in English.
- To make a habit of reading the news in English and thinking critically about events.
- To practice expressing and defending our opinions about controversial topics.

Course Contents:

This course had two lesson modules which were repeated through alternating weeks. The first style was listening oriented. The teacher played news broadcasts while highlighting important vocabulary. Students then wrote summaries of their understanding of the broadcast, which we checked as a class. Afterwards, the students had a discussion about the issues in those broadcasts. The second style was reading and discussion oriented. Students shared their chosen news articles on a Teams page and presented their view of the issues in class. After a Q&A session, they broke into groups and discussed the issues. In the final week of class, we reviewed our topics and discussed how to integrate critical news consumption into our lives.

End-of-Semester Review:

While I could hold onto the same basic course structure used in the previous semester (see above), some aspects had to be changed to account for student dynamics. The average level of English skill, as well as the average level of base knowledge about global issues, was significantly lower than in previous semesters, which meant that both modules did not initially proceed as smoothly as expected. However, the students all shared an earnest desire to improve both English skills and global awareness, so once we established a feasible set of goals and supports, we could proceed smoothly again. The main change for the listening modules was that each week we focused on only one news broadcast and spent more time on it, paying closer attention to the language structure of the broadcast and taking time to explain key concepts while listening. For the discussion module, I intervened more closely to aid students in constructing their discussion questions. I will try to formalize these adjustment processes in

the next year version of the course.

Zemi-Style Course in English: Genres in Japan and Abroad

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Thursday 4th period

Objective:

- To critically analyze and discuss important aspects of contemporary media culture.
- To gain the language skills needed to critically discuss cultural issues in English.
- To build and carry out a course plan designed by the students themselves.

Course Contents:

This was another trial of the Nexus Contemporary Culture Laboratory style of courses (see above) that featured a more difficult topic. At the beginning of the course, an aspect of contemporary culture was presented, and the participating students designed their own course of study for it. For this course, the topic was the concept of genre itself. With the aid of specially designed planning materials and instructor guidance, students decided the textual samples, the weekly lesson structure and course schedule, assignments, and any language help needed. The main bulk of the course followed the students' designed structure while making small adjustments. A final discussion was also planned and carried out towards the end of the course. We reviewed what we had discussed and talked about how to critically view popular media in our future lives.

End-of-Semester Review:

The topic of "genres" was proposed by a student of a previous course in their evaluation form, and I decided to try it this year. The topic of genre is much more abstract than the previous topics (anime and Youtube) and requires a higher degree of background knowledge. Therefore, I combined elements of my "zemi style" courses from previous semesters with the student-led course design here. The result was a course in which I picked out important issues and topics that are relevant to the study of genre, while the students chose the specific genres they wanted to talk about. The result was moderately successful, although it created a lot of preparation work, since I had to adjust their ideas to fit into a proper academic context within the schedule, as well as choose textual samples on a weekly basis. One positive revelation of this course was that although academic readings were offered as completely optional – most students had asked for "no homework" in their course planning documents – the majority of students opted to read them. This means that if an academic context is emphasized, the students will respond even if they reject it at first. I will take this into account in the future.

Plan a Trip in English: Applying your English to your Travels

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Friday 2nd period

Objective:

- To understand the basics about independent travel.

- To learn English vocabulary and phrases related to traveling.
- To practice using printed and online materials in English.

Course Contents:

The ethos of this course was that planning a trip is a fun way to improve practical English skills. Therefore, this workshop-style project-based learning class guided students through the process. We practiced booking flights and hotels, reading guidebooks, and making travel itineraries. We also discussed travel safety and other issues. At the end of the class, students presented their self-designed trips to their classmates.

End-of-Semester Review:

As I wrote in the previous year's report, I feel that this style of 4-skills/PBL mixture is beneficial for the students, so I will continue to offer this course in the future even though the number of students for the class was low. In this semester, my hypothesis was proven right. 15 students, most of whom were first-years, joined this course. This is a high number for the second semester offerings. In addition, many iCoToBa courses directed toward underclassmen have high dropout and no-show rates in the second semester, since first-year students begin to feel the weight of coursework and extra-curricular activities. However, in this course every student who joined was active throughout the semester and completed their final trip plans for sharing in the final lesson. This showed me that the iCoToBa experiential courses are still valuable for new Kendai students even after the effects of Covid-19. The issue is to determine what mix of PR, scheduling, and course design will enable most students to join in our courses easily while they deal with the high workload of the first two years at Kendai.

【フランス語】

Allons en France! (フランスでの生活を始めましょう!)(遠隔授業)

担当: Karine ZIMMER

授業時間: 前期・後期 火曜 4 限

授業目的:

元々、この授業は留学を希望している学生たちの指導が目的ですが、現在、コロナウイルスにより留学が中止になっています。したがって本授業では、留学の具体的な紹介ではなく、日常会話ができるようになる事と仏検に備えた練習を目的としました。

授業内容:

もしフランス人留学生とフランス語で会話する機会があればどんな話をするかという内容に基づいていろいろな言い方を大学生たちに身に付けさせること。その際に文法の復習、表現の説明、フランス人の習慣についても説明すること。

また、仏検に向けて、特に面接の練習を行うこと。

今期の総括:

学生がこの授業のやり方にしっかり慣れた上でとても効果的な勉強ができたと思います。恐れずに会話ができるようになりました。相手に理解されるようにとても重要な正しい発音も身に着けて上達しました。フランス語での言い方だけではなくフランスの文化についての知識も広げることができました。

【スペイン語】

DELE の準備をしよう！（遠隔授業）

担当：Vila RAQUEL

授業時間：前期 水曜 3 限

DELE の準備をしよう！（遠隔授業）

担当：山浦 アンヘラ

授業時間：後期 木曜 5 限

授業目的：

スペイン語検定試験 DELE B1の口答試験および筆記試験について学び、練習し、合格することを目指すことを目的とする。

授業内容：

授業時間中は、DELE の課題（読解、聴解、作文、DELE の口述試験の練習）を勉強し、毎回フィードバックをした。

使用教材：Las Claves del DELE B1（出版社：Difusión）

今期の総括：

遠隔授業だったので、参加しやすい授業だったが、2名しか履修しておらず、学生の負担が大きい講座になった。しかし、履修者は真面目に取り組んでおり、この講座を履修した学生のスペイン語力アップに貢献できたと思う。

今回の講座では会話の練習に長い時間をかけたことから主に口述試験に役に立つような講座になった。しかし、会話だけではなく、読解問題や作文の練習ができ、文法の復習と語彙の学習もできた。

上記から、この講座の目的「DELE B1 の合格を目指す」を達成できたと思う。

【ドイツ語】

Vorbereitung auf das Auslandsstudium（留学前準備講座）

担当：Martin NIERES

授業時間：前・後期 金曜 1 限

授業目的：

外国への留学前に、語学の勉強及び、その国での生活への準備をする。現地での生活に即した語学や文化の学習をする。また、外国での学習形態や方法の違いについても学ぶ。コミュニケーションメソッドやインターアクティブラーニングなどの方法についても説明する。カフェやレストラン、買い物など場面に応じた実践的な語学の学習を繰り返し、実際に現地で使える外国語を身につける。

SIM カードの入手方法や銀行口座の開設の仕方、レンタカーの借り方、チップの渡し方などのすぐに使える情報の提供。

今後、外国で仕事を探す際の助けになるような授業を行なう。

外国語のスマートフォンアプリなどのメディアも活用しながら、明日から使えるような実践的な授業を展開する。

授業内容:

- 第 1 回:自己紹介及び教科書についての説明
- 第 2 回:挨拶の仕方
- 第 3 回:日付の説明
- 第 4 回:人へのたずね方について学ぶ
- 第 5 回:時間の表し方について
- 第 6 回:食事や住まいについて
- 第 7 回:方向や場所の言い方
- 第 8 回:使い方をたずねる
- 第 9 回:簡単なゲーム
- 第 10 回:ドイツでの典型的な習慣
- 第 11 回:ドイツの音楽を聴く
- 第 12 回:スマートフォンアプリを使った学習
- 第 13 回:まとめ

今期の総括と課題:

学生は概ね意欲的に取り組み、国や文化など言語のみならず、その背景にまで興味を持って授業にのぞんでいた。学生は、ドイツ語が上達したと感じ、授業内で質問ができる環境にあり、積極的に臨めた事がうかがえる。講師として、さらに学生の求める学習内容を提供できるように努力したい。

【中国語】

留学之前话中国(中国事情を語る)

担当: 劉 平

授業時間: 前期・後期 木曜 5 限

授業目的:

根据学生的实际水平有针对性地进行语言表达训练,结合中国文化、历史、经济、时事等做相应的讲解,以巩固、提高和补充学生在主课上学到的知识。

授業内容:

本期学员为一年级学生,不具备基本的词汇和语法知识,因此从语音练习着手,选择短小的成语和历史人物故事的视频,先视听,再根据文字材料进行朗读训练,通过反复纠音、正音、语意讲解、向学生提示语法点,增强学生的语感和对汉语语法特性的敏感性。

今期の総括と課題:

根据学生的反馈,上述教学内容和方法比较适合一年级学生,也有效地活用了远隔教学的网上资源。后期教学可在此基础上充实更多内容并适当增添一些语法讲解。

2.2.2 英語コミュニケーション講座

Pronunciation Profiles: Fun Class for Beginners and New Students

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Monday 2nd period

Objective:

- To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds.
- To apply learned pronunciation to natural listening and speaking.
- To look at how personality and emotion can affect pronunciation.

Course Contents:

Students listened to a talk by a famous person and isolated a pronunciation point. After practicing the pronunciation point through drills and games, students returned to the featured person's talk and reproduced the day's point in a larger text.

End-of-Semester Review:

This class kept the 90-minute full-course time of the previous year but moved to a full face-to-face instruction method, while of course using masks and other Covid-19 safety measures. This was closer to the ideal situation for this course, and it was successful in many of the same ways. The basic format of this course can be continued as is. However, it has become necessary to slowly update the featured talks, since many of the cultural figures I have been using are not recognizable to the new generation of students.

English: Back to Basics: English Communication Workshop

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Wednesday 3rd period

Objective:

- To review some basic points about English grammar and speaking.
- To improve spoken English and reduce errors.
- To gain confidence and fluency in speaking.

Course Contents:

This class featured simple English skills that students had covered in public school. We reviewed points of basic grammar and practiced asking questions to keep a conversation going. This class was a safe space for students who still aren't comfortable with English, as well as a chance for more confident speakers to brush up on the basics.

End-of-Semester Review:

The number of participants was high even for this course, over 35 enrollees. I opted not to split the course in two, which proved to be ideal because some students had to cancel due to schedule issues. The issue of cancellation has always been a problem for these iCoToBa classes geared to first-year students. However, thanks to the initial number, even with a drop the class remained at about 25 regular attendees. As with last year, the large number of students allowed me to conduct the activities flexibly, as well as to pair students of appropriate levels so that everyone could participate comfortably according to their abilities.

Tour the English-Speaking World

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Friday 2nd period

Objective:

- To learn more about the English-speaking world.
- To increase interest in travel and global involvement.
- To gain experience giving a presentation in English.

Course Contents:

Each week, the instructor gave an interactive media presentation about one place in the English-speaking world using introductory level English. Topics included natural surroundings, local food and customs, types of English used, and social issues. The topics were broken up by short quizzes and discussion sessions so students could form responses quickly in simple English. In the final lesson, students gave presentations in English about an English-speaking area.

End-of-Semester Review:

Like the other courses geared toward first-year students, this class had a very high enrollment of 30 students. For the main module of the class the students attended regularly and participated well. However, when moving into the final project phase many students left the course, apparently because they had to prioritize the assignments in their credited classes. From next year, I will prioritize the fun and interactive modules rather than cumulative work. As written above, the issue of cancellation has always been a problem for these iCoToBa classes geared to first-year students, and it has worsened this year due to the lack of institutional support for the courses. Unless there is some material motivation for joining, it will be difficult to do any cumulative assignments in the lower-level classes, since these students have heavy coursework loads.

Free Talk for Beginners: Vocabulary Drills and Simple Discussion

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Tuesday 4th period

Objective:

- To improve fluency of English through practice.
- To get over fears and hesitation over speaking English.
- To learn how to incorporate new vocabulary into speaking.

Course Contents:

This was a simple free talk space aimed at beginner-level English learners. The class was divided into two parts. In the first half, we worked with a short vocabulary list, doing drills to practice using the vocabulary. In the second half, we did free talk using simple discussion topics. The activities were meant to help beginners get over their hesitation about speaking in a foreign language without structured activities.

End-of-Semester Review:

Thanks to the overall return to face-to-face instruction, this class was able to be implemented as in previous years. Discounting a small number of dropouts and irregular attendees, it has small but strong cohort of eight students who attended regularly. Therefore, in addition to the

official contents, I was able to integrate performance exercises at the beginning of each lesson. These exercises help students build real-time speaking skills like spontaneity and quick response, as well as the ability to elaborate on topics for extended periods of time. The students seemed to appreciate these exercises as warm-ups.

University-Wide Media Project: Kendai's History

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Wednesday 3rd period

Objective:

- To produce a series of video interviews detailing important parts of APU history.
- To help students apply English skills while learning media production skills.

Course contents:

In honor of Aichi Prefecture's 150th anniversary the APU Alumni Association have asked our university to make a commemorative media project about the history of Aichi Prefectural University. These contents will include a set of video interviews with important alumni and professors. I took on the task of coordinating the interview section of the project, which I turned into a PBL course with student volunteers. In this project, our student team worked together to interview alumni, professors, and other important people in the university's history. Using English language materials, we studied techniques for conducting and filming interviews, designed the interview contents ourselves, carried out the interviews, and are editing the results.

End-of-Semester Review:

Six students from various departments joined the course, and during the course of the semester we have successfully conducted 10 fruitful interviews. The students were excellent and kept up with the immense workload, which sometimes included two full interviews in one week. We also learned and developed both our interview techniques and our filming techniques as we progressed; the project was therefore an exercise in self-guided learning both for me and for the students. Our utilization of the Teams app to communicate was also successful; we began to write all communications in Japanese and English and created a system of linking to make it easy to access and edit the interview question files. Due to the unexpectedly high number of interviewees, the editing module has yet to be completed, but all students have expressed interest in being involved with the editing phase even after the semester ends. Early in the next semester (April) we will hold a presentation to show the full results of our work and the unveiled website.



[Kendai-shi Project Student Media Production Team Interviews and Videos]

Relaxed Topic Discussions

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Friday 4th period

Objective:

- To have a fun and easy-to-join English conversation course.
- To shift iCoToBa's public activities towards a more drop-in form.

Course Contents:

This class was open-structured for fun and casual chat between intermediate-level English learners. Students were allowed to join irregularly as their schedules permitted; conversation activities were based on the number of students who joined each week. We broke into small groups to talk freely about each topic. The teacher gave vocabulary and phrases which could help students express their ideas about the topic more clearly and accurately.

End-of-Semester Review:

This was the final chance to utilize this Friday afternoon time slot for discussion-based courses. It seemed worth trying, since according to the master schedule all student departments would have face-to-face classes on Fridays. In addition, I added the drop-in style of lessons described above, which has sometimes been requested on student evaluation forms. However, the enrollement was much the same as in last year. After an initial few weeks with about six participants, the attendance was reduced to three regular participants. These students were level-appropriate, punctual, and got along well with each other despite coming from very different educational backgrounds. However, it has become clear that the Friday afternoon slot is not appropriate for iCoToBa courses and should be avoided, with the exception of test-preparation courses. In addition, the drop-in style showed little effect. Despite what is written on student evaluations, in practice a regular weekly course schedule fits into students' lives more easily.

2.2.3 地域コミュニティ言語講座

!コロンビア音楽でスペイン語を学ぼう！

¡Aprende español através de la música colombiana!

担当：山浦 アンヘラ

授業時間：8月3日(水)4限(遠隔授業)

8月4日(木)4限・5限、8月5日(金)10:00～11:30、11:40～13:10

授業目的：

このコースはコミュニケーション活動に重点を置いており、受講生がこれまでに習得した知識を強化・拡張するものです。生産(口頭と筆記)、口頭での対話、仲介(口頭と筆記、言語と文化)の簡単な活動が展開されます。最後に、学習者に歌を歌ったり踊ったりしてもらい、その歌の(嫌いな)気持ちを表現してもらいます。

授業内容：

第1回(8月3日)4限(オンライン) Presentación e introducción del curso.

第2回(8月4日)4限 La bicicleta, Shakira y Carlos Vives, pop, reguetón, vallenato.

第3回(8月4日)5限 Me gané la lotería, Siam, pop.

第4回(8月5日)10:00～11:30. ¿De dónde vengo yo? ChocQuibTown, pop, hip-hop.

第5回(8月5日)11:40～13:10 15añera, Aterciopelados & Cía., pop rock.

教育分野スペイン語入門講座

担当：金箱 亜希

授業時間：木曜日4限(11月10日)、木曜日5限(11月17日、12月8日、15日)、水曜日5限(12月21日)

授業目的：

教育現場において、スペイン語圏の児童生徒や保護者を支援する際に必要な知識、語彙や表現を学ぶ。また、他国の教育システムを学ぶとともに、通訳や翻訳をする際に注意する点を理解する。

授業内容：

第1回「外国人児童生徒の背景」と「持ち物の言葉」

第2回「教科用語と生活言語の違い」と「行事の言葉」

第3回「母語の大切さ」と「教科の言葉」

第4回「外国人保護者への対応」と「進路の言葉」

第5回「各国の教育システム」、スペイン語実践

今期の総括と課題：

現場で支援するために必要な知識をテーマ分けし事例などを提示しながら学習した。また、翻訳や通訳しにくい言葉や表現について、実際に翻訳アプリを使ってワークをすることにより、児童生徒や保護者に正確に情報が伝わる方法を身につけた。課題としては、学んだことを実践できる機会が多く設けられなかった。

文化・生活分野中国語入門講座

食文化から学ぶ中国語講座

担当：方 曉娟

授業時間：前期 月曜日4限(6月6日、13日、20日、27日、7月4日)

後期 火曜日4限(10月25日、11月1日、8日、15日、22日)

授業目的:

この授業の目的は中国の食文化を通して中国語を勉強することである。

中国には、昔から「民は食を以て天と為す」という言葉があります。

身近な食文化からスタートして、中国語を勉強し、中国料理と文化の奥深さを知ると同時に簡単な会話を話せるようになります。

授業内容:

第1回:中国料理「料理名を中国語で言えますか」

第2回:中国の点心「食べたことがありますか」

第3回:中国のお茶「美味しいですか」

第4回:中国の米と麺料理「上手に作れますか」

第5回:中国本場の水餃子作りに挑戦する

今期の総括と課題:

総括:テーマに関わる音像素材も積極的に活用し、楽しく授業を行いました。最終回のみ「遠隔授業(Zoom)」で、水餃子作りは学生達の協力でもとても順調にできました。

課題:毎回の授業内容のプリントを学生に事前に配り、履修者は中国語初心者の場合でも中国語会話を少し増やしていきたいです。また時短な簡単な家庭料理を作ることを挑戦したいと思っています。

楽しく学ぼう！ポルトガル語初心者講座

担当: エウニセ スエナガ

授業時間:水曜日3限(6月22日、29日、7月6日、13日、20日)

授業目的:

ブラジルの漫画、映画や音楽等を通して楽しくポルトガル語を学び、ブラジル人やブラジル文化等について親しみが持てるようになること。

授業内容:

第1回 知っておきたい子どものブラジル漫画

第2回 知っておきたいブラジルの映画

第3回 覚えておきたい基本的なポルトガル語表現(日常生活編)

第4回 知っておきたいブラジル音楽

第5回 ブラジルの中の日本、日本の中のブラジル

今期の総括と課題:

ブラジルのマンガ、映画や音楽などを通じてブラジルやブラジル人を身近に感じてもらいながら、ポルトガル語が学べるよう工夫した。今年度は対面授業だったので、受講生の反応をみながら授業を進めることができ、また受講生にいま人気の日本のマンガや音楽、また子ども時代に人気だったマンガや音楽などについての話を聞くことができた。ただ受講生のポルトガル語のレベルにはばらつきがあり、毎回参加しない学生がいたので、どのレベルを想定して授業の準備をすればよいのか迷うことがあった。一緒に音楽を歌う、一つの映画の場面のセリフを暗唱してみんなで演じる、というような活動を取り入れることができれば、レベルに関係なく楽しみながら授業に参加できるのではないかと思った。

楽しく学ぼう！ポルトガル語初心者講座

担当：メロ ワジソン

授業時間：水曜日 4 限(11 月 16 日、23 日、30 日、12 月 7 日、14 日)

授業目的：

ポルトガル語の簡単な表現を学ぶことと、ブラジルの文化やその歴史と日本との関わりについて知ること。

授業内容：

ポルトガル語の特徴の説明、ポルトガル語の挨拶、自己紹介の表現、出身地の聞き方・答え方、好きなことの聞き方・答え方、ポルトガル語の発音の練習、ブラジルの各地方の紹介、ブラジルの食文化の紹介、ブラジル音楽の紹介、ブラジルの歴史と日本とのかかわりの説明。

今期の総括と課題：

初めてポルトガル語に触れた受講者がほとんどで、最初は不安な様子が多く見られたが、授業を進めるに連れてだんだん積極的に授業に参加するようになり、楽しそうにポルトガル語の表現を使ったり、ブラジル文化に興味を持って質問したりした。最後は、ポルトガル語の学習を続けたいと自分で言う受講者も多かった。ポルトガル語とブラジルの文化を知るといふ目的は達成したが、ポルトガル語で話す能力取得にいくまでにはもう少し時間が必要だったと考える。

韓国朝鮮語 CoTo はじめ超入門編～まずはハングルをマスターしよう～

担当：姜 信和

授業時間：水曜日 4 限(6 月 8 日、15 日、22 日、29 日、7 月 6 日)

授業目的：

本講座の目的は、初めて韓国朝鮮語を習う受講生を対象に文字(＝ハングル)と発音から丁寧に学ぶところにあった。さらにハングルの学習と並行して、単語を入れ替えて簡単な会話を楽しむことを目標とした。授業ではこれらの練習を通して、韓国の流行や文化の特徴も垣間見られるように映像もふんだんに取り入れた。以下は各回のテーマである。

授業内容：

第 1 回(6 月 8 日) ハングル概説、これは何ですか

第 2 回(6 月 15 日) どちら様ですか

第 3 回(6 月 22 日) 水正果(スジョング)、ひとつください

第 4 回(6 月 29 日) とてもお腹が空いています

第 5 回(7 月 6 日) これは景福宮(キョンボックン)です

今期の総括と課題：

今回は初めて入門編と初中級編の 2 クラスに分けて講座が開設されることになり、これまで苦慮してきた受講生のレベル差に起因する問題はある程度、克服することができたと思う。また「超」入門編に振り切ったことで、まずはハングルに慣れて音価に習熟することに集中できたこともよかった点である。アンケート結果による受講生の反応も概ね良好であることから、本講座の目的は一定程度、果たせたものとする。その他には、配布したテキストにページ番号を付け忘れるなど、反省点も多くあるが、今後、さらに改善を試みたいと考えている。最後に、今回は殊に 2 クラスへの増コマも含めて、いつも貴重な機会を設けてくださり授業に集中できる教育環境を整えてくださるご担当関係部署の方々に心より感謝申し上げて、

総括の終わりの言葉に代えたい。

観光・文化分野 ～관광 · 문화 분야～

韓国朝鮮語 CoTo はじめ～初中級編～

担当：金 芝恵

授業時間：木曜日 3 限(6 月 2 日、9 日、16 日、23 日、30 日)

授業目的：

本授業は韓国語の文字であるハングルを理解している人を対象とする授業であります。日常会話が聞き取れ、自ら表現できるようにすることを目的にしました。また、具体的な場面を設定し、場面を変えながらの反復練習を通して、より自然な会話ができるようにしました。この授業を受けることによって、会話力は勿論、韓国の文化や社会への関心と理解を深めることができるように心掛けました。

授業内容：

第 1 回(6 月 2 日) 挨拶と自己紹介

第 2 回(6 月 9 日) カフェで

第 3 回(6 月 16 日) 食堂で

第 4 回(6 月 23 日) スーパーや市場で

第 5 回(6 月 30 日) 駅で

今期の総括と課題：

本授業に参加した学生は、韓国語及び韓国の文化についてすでに高い関心を持っている学生であり、かなり高いレベルでの会話の授業が出来たと思います。学生は、事前に用意してある学習内容を理解したうえで、個性的且つユニークな場面を自ら創り出し、積極的に授業と会話に参加でき、授業がより楽しくなったと思います。最後の授業では、韓国に旅行に行くつもりで、自分の旅行計画書を作成、発表することで韓国旅行を間接的に味わうことができました。

ただし参加した学生のレベルの差が大きく、学習レベルでの調整が今後の課題だと思いました。そしてまだ講師が短いスパンでの授業に慣れてなく、今後学習内容の配分を工夫する必要があると思いました。

韓国朝鮮語 CoTo はじめ超入門編～まずはハングルをマスターしよう～

担当：姜 信和

授業時間：木曜日 3 限(11 月 10 日、17 日、24 日、12 月 8 日、15 日)

授業目的：

本講座の目的は、初めて韓国朝鮮語を習う受講生を対象に文字(＝ハングル)と発音から丁寧に学ぶところにあった。さらにハングルの学習と並行して、単語を入れ替えて簡単な会話を楽しむことを目標とした。授業ではこれらの練習を通して、韓国の流行や文化の特徴も垣間見られるように映像もふんだんに取り入れた。以下は各回のテーマである。

授業内容：

第 1 回(11 月 10 日) ハングル概説、これは何ですか

- 第2回(11月17日) どちら様ですか
第3回(11月24日) ナツメ茶、ひとつください
第4回(12月8日) とてもお腹が空いています
第5回(12月15日) これは景福宮です

今期の総括と課題:

前期に引き続き、入門編と初中級編の2クラスに分けて講座が開設されることになり、昨年度まで苦慮してきた受講生のレベル差に起因する問題は克服することができたものと思われる。前回同様、「超」入門編に振り切ったことで、まずはハングルに慣れて音価に習熟することに集中できたこともよかった。また講座終了当初、受講生の反応のよさに比べてアンケートの回答数が異例に少なく気がかりであったが、後になってアンケートの追加提出も確認できた。アンケートの回収に手間取った原因としては、今回、はじめて最終日にアンケートのQRコードを印刷した紙を配布したのみで、回答要請を十分に行えなかったことが考えられる。次回からは最終授業回に5分ほど時間を設けて協力をお願いするなど、より丁寧に対応するつもりである。

以上のようにいくつかの反省点はあるものの、回収できたアンケート結果による受講生の授業評価は良好であることから、本講座の目的は一定程度、果たせたものとする。

最後に、いつも貴重な機会を設けてくださり授業に集中できる教育環境を整えてくださるご担当関係部署の方々に心より感謝申し上げて、総括の終わりの言葉に代えたい。

文化・生活分野 ~문화와 생활~

韓国朝鮮語 CoTo はじめ～初中級編～

担当: 金 芝恵

授業時間: 木曜日4限(11月10日、17日、24日、12月8日、15日)

授業目的:

この講座は韓国語の文字であるハングルを理解している人を対象に、初級レベルでの会話ができることを目標とします。そして自然に会話ができるように映像やゲームなどを使い、会話の練習や関連単語が身につくようにします。その上、ペアワークやネイティブの教員との会話を通して、会話に対する自信が持てるようにします。授業の中では 韓国の文化やKコンテンツ関連の話に触れながら韓国に対する興味や理解も高めるようにします。

授業内容:

- 第1回(11月10日) はじめまして
第2回(11月17日) コーヒー、一つください
第3回(11月24日) 韓国料理が好きです
第4回(12月8日) 今日、何を食べましょうか
第5回(12月15日) コンビニはどこですか

今期の総括:

本講座の対象者はハングルを理解している人でしたが、実際はハングルが読めないけど韓国語で話したい学生も参加したため、最初はスピードをゆっくり進めていきました。その後はグループワークの中で学生同士教え合うことや教員のサポートと指導もあって、みんなが無理なく想定されたレベルでの会話の練習が出来たと思います。簡単な挨拶表現からはじめ、

自己紹介、買い物、食べ物の注文など日常生活の中でよく使う表現を初級レベルで練習し、表現することができたと思います。

初めてのベトナム語入門講座

担当：グエン タン タム

授業時間：火曜日 3 限(5 月 24 日、31 日、6 月 7 日、14 日、21 日)

授業目的：

ベトナム語の表記と発音の基本を知り、読むことができる。

ベトナム人と挨拶し、友達関係を築くことができる程度の簡単なやりとりができる。

日本の周辺国の一つであるベトナムの国・人・文化に親しみ、友好的な姿勢を育む。

授業内容：

本講座の内容はベトナムとベトナム語に興味を持つ学生の関心に応じて、作成したものです。授業では映像化のパワーポイント教材を使用し、ベトナムについての知識及びベトナム語の基本・日常会話といった2つの内容を伝えていきます。

各回のテーマは下記の通りであります。

第1回 ベトナムの基本知識・あいさつ

第2回 ベトナムのユニークな所・自己紹介

第3回 ベトナムの料理・注文

第4回 ベトナムの旅行・買い物

第5回 ベトナムの若者のライフスタイル・友達づくり

今期の総括と課題：

本講座では受講生にベトナム語だけではなくベトナムの基礎知識を理解してもらうために工夫しました。毎回学生との相互コミュニケーションを重視しながら、授業を実施しました。ベトナムの基礎知識としてベトナムの自然、名物をはじめ、歴史・文化の特徴を写真や動画で紹介しました。それに加えて、受講生の関心や知りたいことを、レッスンの内容と関連づけて説明しました。また、ベトナム語の表記と発音について丁寧に説明し、1～数語から成る文を表記のルールに沿ってある程度正しく読み上げられるように練習させました。発音を何回も繰り返してもらいましたが、この段階では受講生はベトナム語のやや複雑な音節・声調に苦戦したと思います。そこで、応用性が高いと思われる会話を導入し、楽しくベトナム語の文法と語彙を覚えてもらいました。相手の性別・年齢・人間関係に応じる挨拶、料理の注文仕方、物の値段の聞き方やベトナム人と友達関係を築くための簡単なやりとりを、講師とクラスメートとペアで練習させました。受講生から、本講座を通じてベトナムの言葉とベトナムのことが面白い、もっと知りたい、勉強したいという声をいただいて非常に嬉しいことです。

初めてのベトナム語入門講座

担当：グエン タン タム

授業時間：火曜日 5 限(10 月 18 日、25 日、11 月 1 日、8 日、15 日)

授業目的：

ベトナム語の表記と発音の基本を知り、読むことができる。

ベトナム人と挨拶し、友達関係を築くことができる程度の簡単なやりとりができる。

日本の周辺国の一つであるベトナムの国・人・文化に親しみ、友好的な姿勢を育む。

授業内容:

本講座の内容はベトナム語に興味を持つ学生の関心に応じて、作成したものであります。授業では映像化のパワーポイント教材を使用し、ベトナムについての知識及びベトナム語の基本・日常会話といった2つの内容を伝えていきます。

各回のテーマは下記の通りであります。

- 第1回 ベトナムの基本知識・あいさつ
- 第2回 ベトナムのユニークな所・自己紹介
- 第3回 ベトナムの料理・注文
- 第4回 ベトナムの旅行・買い物
- 第5回 ベトナムの若者のライフスタイル・友達づくり

今期の総括と課題:

本講座では受講生にベトナム語だけではなくベトナムの基礎知識を理解してもらうために工夫しました。毎回学生との相互コミュニケーションを重視しながら、授業を実施しました。ベトナムの基礎知識としてベトナムの自然、名物をはじめ、歴史・文化の特徴を写真や動画で紹介しました。それに加えて、受講生の関心や知りたいことを、レッスンの内容と関連づけて説明しました。また、ベトナム語の表記と発音について丁寧に説明し、1～数語から成る文を表記のルールに沿ってある程度正しく読み上げられるように練習させました。発音を何回も繰り返してもらいましたが、この段階では受講生はベトナム語のやや複雑な音節・声調に苦戦したと思います。そこで、応用性が高いと思われる会話を導入し、楽しくベトナム語の文法と語彙を覚えてもらいました。相手の性別・年齢・人間関係に応じる挨拶、料理の注文仕方、物の値段の聞き方やベトナム人と友達関係を築くための簡単なやりとりを、講師とクラスメートとペアで練習させました。受講生から、本講座を通じてベトナムを身近に感じられ、ベトナムのことをもっと知りたいという声をいただいて非常に嬉しいことです。

2.2.4 語学検定試験対策講座

TOEIC Clinic (TOEIC Beginners): TOEIC Workshop 1

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Monday 5th period

Objective:

- To become familiar with the kinds of questions on the TOEIC test.
- To improve vocabulary and comprehension as related to standardized testing.
- To understand more about the business culture of the English-speaking world.

Course Contents:

This short course served as an introductory course for TOEIC practice. The teacher explained basic strategy for the various parts of the TOEIC. After taking portions of the test, the students asked questions to the teacher about grammar, vocabulary etc.

End-of-Semester Review:

The Monday 5th Period slot remained a well-attended slot for the TOEIC preparation classes.

As in previous years, the class is mainly attractive to first and second-year students who have little experience with the TOEIC. The branding of this course seems to be working. Therefore, I was able to conduct the course as usual, with no major adjustments.

New TOEIC Reading Exercises (TOEIC Veterans): TOEIC Workshop 2

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Monday 5th period

Objective:

- To improve reading speed and comprehension of TOEIC Reading Questions.
- To improve vocabulary and comprehension as related to standardized testing.
- To understand more about the business culture of the English-speaking world.

Course Contents:

In this short course, we focused on improving reading speed and comprehension for Section 7 of the TOEIC. We used TOEIC practice questions and did reading and vocabulary-building drills. We also used the questions to learn about the kinds of cultural and business situations that appear in the TOEIC.

End-of-Semester Review:

For this course, only one student regularly joined. In addition, this student was not level appropriate for advanced TOEIC study. Therefore, we spent the time doing extended test practice of various sections. I will not offer this course next year.

TOEIC Clinic ONLINE: TOEIC Workshop 3

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Wednesday 4th period

Objective:

- To become familiar with the kinds of questions on the TOEIC test.
- To improve vocabulary and comprehension as related to standardized testing.
- To understand more about the business culture of the English-speaking world.

Course Contents:

This short course served as an introductory course for TOEIC practice. The teacher explained basic strategy for the various parts of the TOEIC. After taking portions of the test, the students asked questions to the teacher about grammar, vocabulary etc.

End-of-Semester Review:

This session of the TOEIC was conducted online, with similar results as in the Covid-19 lockdown period. However, with the campus returning to normal after the years of Covid, I am not sure about the necessity of continuing it in the future. On the whole, face-to-face instruction is more fulfilling for both teacher and students. In addition, it is difficult to simulate test conditions online. While this online version may be convenient for some students' schedules, in terms of our course metrics there is not a visible difference in attendance or participation between this and the face-to-face versions.

TOEIC Strategies: 10-Week Course

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Monday 5th period

Objective:

- To become familiar with the kind of language on the TOEIC test.
- To improve vocabulary and comprehension as related to standardized testing.
- To understand more about the business culture of the English-speaking world.

Course Contents:

This class was for students who already have some experience with the TOEIC. Using sections from an ETS-Oxford test preparation book, we went into detail about strategies for taking the TOEIC test. We spent most of the time trying out various time-saving techniques, as well as practicing best-guess strategies. We also studied important grammar points and developed semantic flexibility.

End-of-Semester Review:

This longer TOEIC course worked very well again, although there were some attendance issues due to irregularities of this semester's schedule. I had written about giving a module on the IBT test that the students take on campus, but I was not able to attend a practice session of this course. In addition, after discussing the matter with other veteran instructors of TOEIC, I think that continuing with the 公式 style of TOEIC instruction is better, since it prepares students for their future experiences with TOEIC in the Japanese workplace.

TOEIC Clinic (Separate Sessions)

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Monday 6th period December 5th & 12th, Tuesday 5th period November 29th & December 6th, Thursday 5th period December 1st

Objective:

- To become familiar with the kinds of questions on the TOEIC test.
- To improve vocabulary and comprehension as related to standardized testing.
- To understand more about the business culture of the English-speaking world.

Course Contents:

This short course served as an introductory course for TOEIC practice. The teacher explained basic strategy for the various parts of the TOEIC. After taking portions of the test, the students asked questions to the teacher about grammar, vocabulary etc. This course was connected to an iCoToBa-based program for funding eligible students' TOEIC test fees.

End-of-Semester Review:

For this version of the TOEIC Clinic 2nd Semester short course was conducted in separate periods as before. This has been a necessary method because this course was connected to funding eligible students' TOEIC test fees. However, it naturally leads to partial attendance and a lack of cumulative learning. Therefore, I have come to think that this method is counterintuitive. I will consult with other iCoToBa committee members first, but I am leaning

towards canceling these separate sessions and sticking with a cumulative 5-week course.

英語力強化集中講座(夏季)

リスニングセクション対策講座・リーディングセクション対策講座・
スピーキング&ライティングセクション対策講座

授業時間:9月5日(月)～13日(火) 1・2限、12日(月)のみ1・2・3限

リスニング7講座、リーディング6講座、スピーキング&ライティング2講座

英語力強化集中講座(春季)

リスニングセクション・スタート講座・リーディングセクション・スタート講座・
スピーキング&ライティングセクション・スタート講座

授業時間:2月6日(月)～14日(火) 1・2限、13日(月)のみ1・2・3限

リスニング7講座、リーディング6講座、スピーキング&ライティング2講座

担当: 宮崎 尚一

授業目的:

検定英語受験対策のための総合英語力強化

授業内容:

本講座では各種の英語検定試験がどのような構成で成り立っているかを説明し、それらへの基本的なアプローチの仕方を解説した。受講生からの強い要望もあり、特にTOEIC試験の演習量を増やし、効果的な対策を行った。講義の中では頻出問題を取り上げ、英文の論理的な流れを踏まえて徹底的に分析し、設問の出題傾向を踏まえたうえで効果的にアプローチする方法を習得させるようにした。また、設問の選択肢から正解を選ぶうえで必ず「判断の根拠」を明確にすることも心掛けさせた。指導中は、ネイティブスピーカーが読み上げた英文の音声を常に聞かせ、聴き取りのポイントを指摘しながら、受講生のリスニング・スキル向上に努めた。

今期の総括と課題:

英語学習に対して非常に真摯な姿勢の受講生が集まり、それぞれ英語力を強化するために努力をしてくれたように感じている。本講座では時間的制約もあってリーディング・スキルとリスニング・スキルに重点をおいた。その2つのスキルの向上が、ライティング・スキルとスピーキング・スキルの向上にもつながるからである。ウエイトの置き方はこれでよかったのではないかと思っている。今後の課題としては、参加した受講生が、自信をもってリーディング・スキルとリスニング・スキルを活用し、この先も総合英語力向上に積極的に取り組んでもらえるよう、自学自習の道筋を示せるようにすることだろう。これまでも講義中に講師自身の体験を挟むようにはしているが、より一般性のある、システムティックなプログラムを提示できるよう研究し、工夫していきたい。

DELE B2の準備をしよう!

授業時間:水曜日3限(10月12日、19日、26日、11月2日、9日)

担当: Vila RAQUEL

ドイツ語能力検定試験・CEFR 対策講座

授業時間: 月曜日 5 限(11 月 14 日、21 日、28 日、12 月 5 日、12 日)

担当: Martin NIERIS

授業目的:

検定試験を受けるにあたり必要な知識や、日本のテストとは違う特有の設問を把握する。問題を何度も解き、当日はスムーズに試験に臨めるようにする。また、本番への心構えや重要なポイントなどを紹介し、メンタル面も含む試験対策をする。

授業内容:

試験の内容を把握するために、実際に出題された過去問題を解く。日本のテストとは違う事が多く、設問の内容が理解できない場合がある為、反復練習を行い、必要としている解答がスムーズに導き出せるようにする。

今期の総括と課題:

試験対策として難しい点などを詳細に説明した。一番難しいと思われる聞き取り問題や、コミュニケーションを重視し、集中的に練習を行った。

日本語能力試験対策講座(遠隔授業)

授業時間: 木曜日 3 限(10 月 20 日、27 日、11 月 3 日、10 日、17 日)

(Teams での遠隔授業)

担当: 川口 純子

授業目的:

「日本語で読む」スピードの向上をはかることで、試験問題を効率的に読み解き、個人のもつ能力を最大限発揮することを目的とする。精読だけではなく、スキミング、スキャンニング、速読を組み合わせ、各問題、各自のレベルに応じて時間の使い方を工夫する力を養う。

授業内容:

受講者 5 名:

N1 受験予定 2 名 (1 名 12 月受験予定、1 名 2023 年 4 月受験予定) は第 3 回 11 月 3 日から 3 回受講

N2 受験予定 1 名、12 月受験予定で 11 月 10 日までの 4 回受講

N3 受験予定 2 名、4 月受験予定。1 名は 4 回受講、1 名は 3 回受講

授業の枠組み:

1. 眼筋トレーニング、速読トレーニング、マルチタスク読書トレーニング
五感や多様な認知方法によるホリスティックアプローチで、読む目的に応じた読書量の質の向上
2. e-ポートフォリオによる変化の可視化と内省、互いの内省シェアで新たな気づきの促進
3. 自立学習へのサポート
対策問題集・対策アプリからの質問への解説。受講以前から各自が購入していた対策本、第 1 回で紹介した受験対策アプリ (無料) からの質問への解説

今期の総括と課題:

トレーニング開始前の各学生の WPM(1 分間に何文字読めるか)と比較すると、最後の回

では、一番伸び率が低い学生で 2.2 倍の WPM 1216、一番変化した学生で 4.7 倍の WPM 1750 と変化したことがわかった。

精読(100%～90%理解できたと感じる)をする場合でも、全員が 2 倍以上の WPM で読むことが可能となった。伸び率が一番低かった学生は日本語の読解より母語での読解のスピードは体感で 4 倍になったと話す。参加者全員が読む目的に応じた読み方(精読、スキミング、スキミング等)が選択可能になったと実感できたとふりかえった。

2022 年 12 月の検定試験の結果は 1 月 23 日に発表される。今回受験した 2 名の嬉しい報告を期待する。

2.2.5 イベント・ワークショップ型講座

iCoToBa Open Screen 2 (21st-Century Lab)

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Wednesday 5th period

Objective:

- To practice media production techniques in a bilingual context.
- To shift iCoToBa's public activities towards a more drop-in form.

Course Contents:

In this drop-in course, I used an English-language media production textbook to learn about and practice basic techniques for audiovisual media production. We also watched film clips to see the techniques in action. Students were invited to join the units that were interesting to them.

End-of-Semester Review:

While only two students joined the course, they joined regularly and participated actively. In addition, they contributed their ideas about what parts of the media production process were important for them. Through their input, we began to focus on shot techniques and storyboarding. Towards the end of the course, each student storyboarded, directed, and edited their own short video, using the teacher and the other student as actors. On this scale, it was a very successful result for the trial version of the course. I have also concluded that the drop-in option is counterproductive; next year I will design the course more along the lines of the full-time Nexus student-led courses described above.

iCoToBa Open Screen 1

Instructor: Brett HACK

Period: Spring Semester, Thursday 5th period

Objective:

- To have an English-language movie screening regularly at Kendai.
- To shift iCoToBa's public activities towards a more drop-in form.

Course Contents:

This was a weekly movie screening featuring English-language movies. Each week I showed

a film after giving a short introduction to it. Afterwards, participants engaged in a short discussion.

End-of-Semester Review:

I tried to tie this movie screening to the advanced film literacy course described above. We did have an overlap of students from that course coming to the screening, but not enough to justify this linkage in the future. I will switch to Wednesday screenings in the second semester.

iCoToBa Open Screen

Instructor: Brett HACK

Period: Fall Semester, Wednesday 4th & 5th period

Objective:

- To have an English-language movie screening regularly at Kendai.
- To shift iCoToBa's public activities towards a more drop-in form.

Course Contents:

This was a weekly movie screening featuring English-language movies. Each week I showed a film after giving a short introduction to it. Afterwards, participants engaged in a short discussion.

End-of-Semester Review:

In this semester I extended the time slot to two full class periods. This allowed us to watch longer movies and to have a longer discussion time afterwards. This format is probably the best way to carry out the screenings. However, I will need to re-think how to publicize the screenings, because we mostly had the same small number of regular participants attending. There are many possible ways to increase visibility of these screenings on campus; I will try different things over the course of the next two semesters.

iCoToBa Drop-In Courses Talking about Movies Summer Marathon

Instructor: Brett HACK

9:00-12:00, 13:00-16:00 on September 26th, 27th, 28th, 29th

Objective:

- To have an English-language movie screening regularly at Kendai.
- To shift iCoToBa's public activities towards a more drop-in form.

Course Contents:

Some of the regular students in my media and culture classes asked to have a movie viewing for the summer activity, so I responded. For the movies, I focused on cultural comparisons between Japanese and Hollywood movies. The two daily slots of the marathon featured one movie from each country that dealt with a similar topic or were of a similar genre. Students who attended both slots could make comparisons between them.

End-of-Semester Review:

I was happy that the regular students in my media and culture classes attended these sessions, although only a few of them were able to see both movies of a day. Due to the small number

of students during the summer marathon, we had time to view samples from extra movies in each genre during the discussion sessions, which made for interesting points of comparison.

受講者の声

外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻 1 年 石川沙羅

毎週金曜日 2 限に行われているこの講座では、英語を通して海外旅行計画をグループの皆で立て実際に海外旅行をする時に役に立つ知識などを学ぶことができます。授業はすべて英語で行われますが、授業の雰囲気はカジュアルでとても楽しく、気軽に受けられる講座の一つだと思います。また、この講座の魅力的なところは、「英語で学ぶことができる」という点にあると思います。実際に飛行機やホテルの予約、現地では何ができるかなどの下調べやグループ内での話し合いなど全て英語で行うため、旅行する際の知識を得られるとともに自身の英語力・コミュニケーション力を磨き上げることができます。英語や海外旅行に少しでも興味のある方は是非この講座に参加してみてください！

(英語で自分の海外旅行計画を立てよう！英語と旅行をつなげる 受講)

外国語学部国際関係学科 3 年 山本一馬

ゼミ型コース: 日本と英語圏における「ジャンル」に参加しました。このクラスは、メディアにおける「ジャンル」とは何かについて学ぶとともに、議論したいジャンルやテーマを、学生がディスカッションの中で決めることで授業内容を決定していくという特徴があり、結果として毎回のクラスに普段よりもさらに主体的に参加することができました。内容としては、メディアにおける「ジャンル」がどのように作られているのか、そして私たちがどのように「ジャンル」を認識し、判断しているのかという、認識プロセスのようなものを専門的に学ぶことができたので、またひと味違ったメディア作品の見方ができるようになりました。

(英語でゼミ型コース: 日本と英語圏における「ジャンル」 受講)

外国語学部英米学科 3 年 丸山真由

これまで、世界のニュースについて英語で議論する機会があまりなかったので、大変でしたが、英語力、そして議論する力を鍛える良い訓練になったと思います。少人数クラスだったため発言する機会も多く、最初は緊張していましたが、先生が生徒の理解度を確認しながらサポートしてくださったため、楽しく授業に参加することができました。また、年齢も学部も異なる人とディスカッションをしたため、様々な視点からの考えを聞くことができ、新たな発見が多くありました。英語力だけでなく、社会で生きていく上で役に立つ知識も得ることができ、非常に有意義な時間でした。ありがとうございました。

(グローバルニューストーク 受講)

外国語学部中国学科 4 年 柴田紗穂

愛知県にはブラジル人が多く住んでいるので、ブラジルのことを知りたいと思い講座に参加しました。講座ではブラジルの言語や地理、文化や歴史について学びました。ポルトガル語は、男性名詞と女性名詞や語頭の h を発音しないことなど難しい部分もありましたが、楽しく勉強できました。また、サンバ以外にも様々なジャンルの音楽を聴いたり、シュラスコをはじめとする

伝統的な料理の写真を見たりして、さらに関心をもつようになりました。この講座で学んだ知識を活かしてフェイジョアーダを食べに行きたいです！

(ポルトガル語初心者講座受講)

外国語学部ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻 2 年 前田凜子

全 5 回の対策講座でしたが、実際の試験問題を解く試験対策はもちろん、ドイツ語のスピーキング力も上げることのできた講座でした。ゲーテ・インスティトゥートや ÖSD はスピーキングのテストもあるので、会話練習をする時間が多かったです。初めは何を聞かれているかもわからず、一回の授業がとても早く感じましたが、回を追うに連れ段々と内容を理解できるようになりました。個人的には学部の会話の授業よりも積極的にドイツ語を話せたのではないかと感じました。検定試験の対策をしたい方はもちろん、ドイツ語の会話力を上げたいと考えている方にもおすすめの講座だと思います。

(ドイツ語検定試験対策講座 受講)

2.2.6 iContact(あいこんたくと)

2022 年度の iContact は、iCoToBa のハック教員と教養教育センター外国人教員 4 名が担当する英語、教養教育ポルトガル語専任教員とブラジル政府派遣講師によるポルトガル語、留学生の SA(スチューデント・アシスタント)が担当する言語(フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、韓国朝鮮語)で実施した。担当した学生は前期 13 名(フランス語 2、ドイツ語 1、スペイン語 2、中国語 7、韓国朝鮮語 1)、後期 23 名(フランス語 5、ドイツ語 3、スペイン語 5、中国語 7、韓国朝鮮語 3)であった。昨年度に続き、予約時に対面またはオンラインを選択可能とした。オンライン iContact は Teams のテレビ会議システムを使用した。オンライン iContact を利用する学生も一定数はおり、オンラインの利点を生かして活用していきたい。

2022 年度の iContact 実施実績を表 6、表 7 に示す。

[表 6 2022 年度前期 iContact 実施実績]

言語	担当	実施回数	参加者数(のべ数)	合計時間
英語	iCoToBa 専任教員 教養英語専任教員	169	399	42.25
ポルトガル語	教養ポルトガル語 専任教員	25	47	6.25
フランス語	留学生	40	62	20
ドイツ語	留学生	30	74	15
スペイン語	留学生	36	93	18
中国語	留学生	123	207	61.5
韓国朝鮮語	留学生	20	61	10
合計		443 回	943 人	173 時間

[表 7 2022 年度後期 iContact 実施実績]

言語	担当	実施回数	参加者数(のべ数)	合計時間
英語	iCoToBa 専任教員 教養英語専任教員	163	408	40.75
ポルトガル語	教養ポルトガル語 専任教員	26	31	6.5
フランス語	留学生	96	225	48
ドイツ語	留学生	68	118	34
スペイン語	留学生	94	246	47
中国語	留学生	142	243	71
韓国朝鮮語	留学生	60	128	30
合計		649 回	1,399 人	277.25 時間

Teacher's Voice

Martin BAILDON (Liberal Education Center)



The iContact programme provides opportunities for both students and instructors to extend conversations beyond those possible within classrooms in a comfortable and friendly environment. Through this environment I was able to learn so much about different students' goals, experiences and future expectations. The format of iContact allows students to express themselves freely, and the positivity of each student was incredible, whether they were booking sessions for advice on tests, coursework or just chatting. The success of iContact stems largely from the staff who diligently ensure the smooth running and promotion of the programme within a highly flexible system. Booking times were always full and well organised meaning students were at ease whenever they arrived for a "chat". I look forward to helping continue the success of iContact in 2023.

Ben FILER (Liberal Education Center)

This was my first year as a teacher at APU, and therefore, first experience of the iCotoba Lounge and iContact. I think it is a wonderful programme and have really enjoyed being a part of it. As a result of iContact, I have spoken to students who I wouldn't normally teach and had the chance to talk about a wide range of topics. It has been especially nice to meet some students on a regular basis and get to know them quite well. Having noticed a few students preparing for the IELTS test, I was happy to offer an IELTS-focused session of iContact. Hopefully, these sessions gave the students a chance to do their best in the IELTS test, and I was delighted to hear their excellent scores. I'm already looking forward to another year of iContact in 2023.

Craig JONES (Liberal Education Center)

I have once again enjoyed my time in iContact this year. It was wonderful to see the return of the international students after a difficult few years during the Covid 19 pandemic. The return of the international students created a great atmosphere in the iCotoba centre. It is a fantastic place for students to gather with people from all over the world and the students embraced the opportunity. This year, I had face to face appointments with students from a variety of different departments. We also made iContact available online, for students that were uncomfortable or unable to attend face to face. I think this is a great idea and I hope we continue to provide this option moving forward. iContact provides me with the opportunity to get to know students better than regular classes; I am looking forward to another exciting year of iContact in 2023.

Christopher WYLE (Liberal Education Center)

This year's iCoToBa sessions was enjoyable for me and hopefully beneficial for the students as well. Now many of my students who began four years ago are graduating and it's a little sad to say goodbye to the regular visitors which I got to know over the years. It was beneficial that this year students were able to utilize iCoToBa through Microsoft Teams online as well as in-person. As last year, many students came in person but some found the online sessions beneficial and convenient. This flexibility seemed to benefit students and there were no problems with online sessions when scheduled. As in the past, I was glad to speak with many students from a variety of majors and graduate students that I did not teach in my regular classes and of course I enjoyed chatting with my own current and former students as well. Our conversations seemed especially interesting this year and I am amazed by the variety of topics that come up each week. I am also grateful that many international students have returned to Kendai and our students seem to benefit by meeting students from their major study countries in person and can practice not only English but other languages as well with other students from around the world.

Eunice SUENAGA (Liberal Education Center)

Neste ano letivo de 2022, muitos alunos, principalmente aqueles que assistiam às aulas de Português I ou Português II, vieram conversar comigo no iContact. Foi muito divertido conversar com eles, e aprendi muito. Uma aluna me contou sobre os eventos de cosplay dos quais participava e também sobre os animes que estão fazendo sucesso entre os jovens, e outra sempre me falava dos livros que tinha lido ou dos filmes a que tinha assistido. Nessas conversas, fiquei sabendo que o anime “SPY & FAMILY” faz sucesso entre os jovens, e cheguei a comprar e ler alguns dos livros e a assistir a um dos filmes que uma das alunas tinha me recomendado. É muito bom conversar com os alunos e saber o que eles estão fazendo fora da aula, bem como saber em que eles têm interesse. No próximo ano letivo também gostaria de conversar mais e aprender mais coisas novas com eles.

2022 年も多くの学生が iContact にきてくれたので、ポルトガル語でおしゃべりをしました。多かったのは「ポルトガル語 I」と「ポルトガル語 II」の学生です。ある学生は、参加したコスプレイベントのことや、最近若者に人気のアニメなどについて教えてくれました。『SPY&FAMILY』が

学生のあいだで人気があることを知りました。もう一人の学生は、読んだ本や観た映画などについて話してくれました。その中でも気になった本や映画は、自分で買って読んだり、観にいったりしました。学生が授業以外の時間に何をしているのか、何に関心があるのか知るのには教員として役に立ちます。これからも学生と色々おしゃべりして、新しいことをたくさん教えてもらうのが楽しみです。

Melo WADISON (Liberal Education Center)

Este foi o meu primeiro ano lecionando português na Universidade da Província de Aichi. O iCoToBa me proporcionou uma grande oportunidade de poder interagir melhor com os alunos de português, conversar com eles em português e de conhecê-los melhor. Eu fiquei bastante surpreso e feliz com o grande interesse que os alunos mostraram pelo português e pela cultura brasileira. Também me emocionou muito ver o esforço deles em se comunicar em português durante todos os encontros que tivemos no iCoToBa. Aguardarei ansioso pelas nossas futuras sessões.



2022 年から愛知県立大学で教え始めました。iCoToBa をとおしてポルトガル語を勉強している学生と交流したり、ポルトガル語で会話したり、お互いに知り合ったりするとてもいい機会となりました。皆さんがポルトガル語とブラジルの文化にとっても興味をもってくれたことにびっくりして、大変うれしく思いました。毎回頑張ってポルトガル語でコミュニケーションをとろうとしていた皆さんの様子にも感動しました。これからもiCoToBa で会うのを楽しみにしています。

Student's Voice

ペーチュ アレクサンダー (ライプツィヒ大学 交換留学生)

Ich war im Sommersemester 2022 bei iCotoba für jeweils zwei Tage pro Woche als iContact angestellt. Dort konnte ich stets Interessierte aus den verschiedensten Studiengängen und natürlich vor allem Deutschlernende treffen und zum kulturellen und sprachlichen Austausch aktiv beitragen.

Am Anfang kamen viele potentielle Interessenten bloß ein, zwei Mal, um einen Einblick zu gewinnen, jedoch bildeten sich danach sehr schnell feste Gruppen aus Deutschlernenden heraus, die sich zu allwöchentlichen Lernsitungen entwickelten, was mich sehr freute.

Wir haben stets über verschiedene Themen gesprochen, teils auch über mehrere Wochen hinweg über dasselbe. Unter den Themen befanden sich unter anderem Reiseziele, Feiertage in Deutschland und Japan, Vorurteile im Alltag oder auch nützliche Hinweise zu Dingen, die man in Japan/Deutschland vielleicht lieber nicht machen sollte, wie zum Beispiel sich auf die Pünktlichkeit von Zügen zu verlassen (in Deutschland) oder im Zug Lebensmittel zu sich zu



nehmen (in Japan) und vieles andere mehr.

Das Ganze war stets humorvoll und informativ zugleich. Dank der Möglichkeiten des iContact konnte ich überaus wertvolle und lehrreiche Erfahrungen sammeln, was mich die regelmäßigen Treffen bereits jetzt vermissen lässt. Gleichzeitig freue ich mich auf zukünftige Austauschprojekte und möchte mich bei diesen ebenfalls proaktiv einbringen. In der Zwischenzeit setzen sich unsere geschlossenen Bekanntschaften auch über den Rahmen von iCotoba hinaus fort, beispielsweise in Form von Ausflügen in den Semesterferien.

Um es auf den Punkt zu bringen: Ich kann jedem mit Interesse nur empfehlen einmal bei iCotoba vorbeizuschauen. Es soll zu euerm Nachteil nicht sein!

私は、2022 年度前期を通じて週に 2 回 iContact を開きました。そのおかげで、専攻を問わず国際的な文化交流に興味がある方や、とりわけドイツの文化をさらに知りたい方、またはドイツ語を学ぶ日本人学生と出会うことができ、多言語の文化交流にも積極的に貢献できました。

最初は、多くの"見込み客"が一、二回見学に来てくれましたが、その後はドイツ語圏専攻の学生が毎回参加してくれて、各曜日に固定のグループができたので、嬉しかったです。毎週、様々なテーマが取り上げられ、同一の話題について数週間も話し合いをしたこともあります。例えば、いつか行きたい所、日本／ドイツにおける祝日、日常生活にある偏見、さらにドイツでの電車時刻表の悪名高い正確さを信用しすぎないように気をつけることや、日本の電車で乗車中に飲食をしないようにすることなどの実生活に役立つ貴重なアドバイスについて話しました。

毎週 iCotoba で体験した文化交流は、いつもユーモアにあふれており、同時に今後のための勉強にもなりました。iCotoba のおかげで有意義な時間を過ごすことができ貴重な経験が得られたので、今もう既に頻繁に行われたこの会を懐かしんでいます。しかしだからこそ、ドイツでも日本でも、今後の交流イベントなどがさらに楽しみであり、積極的に貢献したくなってきました。知り合った学生たちとの活動が iCotoba での定期的な会を越えていき、夏休みで日帰り旅行などの遊びにまで続いています。

要するに、ご興味がある方には、ぜひ iCotoba への見学をお勧めします！足を運んでも、損にはなりません！

ベッジャ エヴ (リール大学 交換留学生)

Lors de mon arrivée à l'Université Préfectorale d'Aichi, il m'a été proposé de faire un petit travail où je parlerais dans ma langue natale avec des étudiants japonais. En effet, l'espace Icotoba est dédié aux étudiants qui veulent parler de nouvelles langues telles que le français, anglais, espagnol, japonais. Je travaillais 1h par semaine, j'ai pu aider les étudiants japonais avec leurs devoirs de français mais aussi ils m'ont beaucoup aidé à avoir plus de confiance en moi pour parler en japonais. C'était un véritable échange de cultures. Grâce à Icotoba, j'ai pu me faire des amis japonais et par la suite aller boire des cafés, ou manger avec eux. En effet durant les cours à l'université, nous sommes très rarement



en contact avec les étudiants japonais. Je recommande vivement aux étudiants étrangers de participer à Icotoba et aux différents événements organisés.

愛知県立大学に着任したとき、日本人学生と母国語で話すという小さなアルバイトを依頼されました。フランス語、英語、スペイン語、日本語など、新しい言語を学びたい学生のためのアイコトバ。毎週 1 時間の勤務で、日本人の学生のフランス語の宿題を手伝いました。学生たちが私は日本語で話すことに自信を持てるように助けてくれたりしました。まさに文化交流の場でした。アイコトバのおかげで、日本人の友達ができ、その後、一緒にコーヒーや食事をしに行くことができました。確かに、大学での授業中、日本人学生と接することはほとんどありません。留学生の皆さんには、ぜひアイコトバやさまざまなイベントに参加することをお勧めします。

漆 恰恒（東呉大学 交換留学生）

まず、留学生が日本人の学生や他の留学生と交流できる場所を提供してくれた先生に感謝しています。本当に便利です。今学期私はここで静かな自習したことがあるだけでなく、友達と楽しく話し合うことができたことがあって、同じく多くの知識を学んで、本当に実り多いです。そしてこの先生はみんなとても優しく、何か困ったことがあってもいつも熱心に解決してくれます。ここで様々なイベントを開催していただき、忘れられない思い出になりました。

学校の中で私達に家庭のように、暖かい場所を提供してくれたことに本当にありがとうございます。新しい年に ICotoba がもっとよくなってますますにぎやかになることを望んでいます。

首先，非常感谢 ICotoba 为我们提供了一个和日本同学还有其他外国留学生交流的场所。这里非常便利，这个学期我经常在这里自习，并且和很多外国朋友交流，学到了很多知识。这里的老师都非常好，经常热心地帮我们解决问题。同时这里多样的活动，也给我留下了许多回忆。再次感谢 ICotoba 在学校为我们我们提供了一个像家一样温暖的场所，希望新的一年 ICotoba 也能越办越好。

李 晓萍（四川師範大学 交換留学生）

最初はすごく緊張していました。でも、先生も学生も親切で、よく私と優しい日本語で話していました。だんだん安心になりました。icotoba のおかげで、たくさんの友達を作りました。中国語学科の友達と相互学習して、日本語の会話能力も聞き能力も上がりました。そして、他の国からの留学生と交流して、いろいろな他国の文化を知りました。私は内向的でしたが、icotoba で一年を通して、社交的になりました。人とのコミュニケーションが好きになりました。



刚开始的时候非常紧张，但是，老师和同学们都很热情，经常用比较简单的日语和我交流，我渐渐放松了下来。托 icotoba 的福，我交到了很多朋友。我和中文学科的朋友相互学习，我的日语的会话能力和听力都得到了提高。而且，通过和其他国家的留学生交流，我了解到了很多其他国家的文化。我以前很内向，但是通过在 icotoba 的这一年，我变得喜欢社交了。变得喜欢和人聊天了。真的很感谢。

羅 世廷（東呉大学 交換留学生）

一開始覺得要和不認識的日本學生聊天是一件非常困難的事，所以剛開始非常緊張。但是一段時間過後，我發現大家都非常的友善，對我不成熟的日文非常包容，因此我越來越喜歡來 icotoba 和大家聊天，也因此認識了很多好朋友。在這裡留下的回憶或許一輩子都不會忘記吧。

はじめに知らない日本人学生とおしゃべりすることは難しいことだと思って、すごく緊張する時期がありました。しかし、少し時間経ってから、来てくれたみんなが優しく、私の未熟な日本語を受け入れてくれたから、徐々に icotoba に来ることが好きになりました。そのおかげでたくさんの友達ことができました。ここに残した思い出は一生に忘れないと思います。

ナム スギョン（韓国外語大学 交換留学生）



icontact 시간에 일본인 친구들과 이야기하면서 한국어도 가르쳐주고 반대로 일본어도 배웠습니다. 짧은 시간이었지만 많은 공부가 되었습니다 그리고 icotoba 에서 일본인이 아닌 외국인 친구들과 일본어로 대화할 수 있었던 것도 신기하고 즐거웠습니다. 중국인, 멕시코인, 프랑스인, 스페인인하고 일본어로 이야기를 나눈다는 게 상상이 가시나요?^^ icotoba 에서 정말 값진 시간

보낼 수 있었습니다!

icontact の時間に日本人の友達と話し合いながら韓国語も教えたり、逆に日本語も教えてもらったりしました。あっという間でしたが、とても勉強になりました。

そして icotoba で日本人じゃない外国人の友達と日本語で話したことも楽しかったです。中国人、メキシコ人、フランス人、スペイン人と日本語で会話するって想像できますか?^^

icotoba で貴重な時間を過ごすことができました！

マイダザリ メルヌウシュ（テュービンゲン大学 交換留学生）

I really enjoy the time in iCoToBa. Through this multilingual centre you had the opportunity to meet students outside the courses you were taking. The idea or concepts of iCoToBa also provides an atmosphere without pressure, which motivates students to meet new people, have cultural exchange and improve their communication skills in various languages like Chinese, Spanish, French etc. I got to know many Japanese students and it was very pleasant and fun to exchange thoughts and experiences about Germany, Japan, and also Iran. One of my Japanese friends, whom I met through ICoToBa, studied German and since she wrote her bachelor thesis on capitalism and socialism, we had an interesting discussion about economic and social concepts and theories in German. I hope that more students take advantage of this nice opportunity.

井上 実久（外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻 4 年）

私は学んだ語学力を維持し、実践の機会を増やすため英語とスペイン語の iContact に参加しました。考えたことを瞬時にその言語に変換し伝えるのは難しかったですが、続けていくうち

に以前よりもスムーズに言葉が出てきて会話を楽しめるようになりました。短い時間でも継続することで語学力が伸びるのを感じられるので、定期的に通うことをお勧めします。

2.2.7 海外大学の学生とのオンライン交流

コロナ禍から始まったオンライン交流を今年度も引き続き実施した。昨年度から始まったグアダラハラ大学(メキシコ)に加え、グアダラハラ自治大学(メキシコ)、東海大学(台湾)との交流会も開催した。

メキシコグアダラハラ大学
オンライン会話クラブ参加者募集！
日程が新しくなりました！

日本時間：9:30～10:00 日程はカレンダーで確認してください。
申込方法：開催日の前日の正午までにメールで申し込む
宛先：icotoba@foraichi-pu.ac.jp ZOOMのテレビ会議システムを使用します

日	月	火	水	木	金	土	日
24	25	26	27	28	29	30	31
1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24	25

毎日違うトピックで話します。申込者にトピックとZOOMのリンクを送ります。
加 入 参 加 する 要 は あ り ま せ ン。
問 合 せ : iCoToBa (多 言 語 学 習 セ ン タ ー)
icotoba@foraichi-pu.ac.jp

グアダラハラ大学(メキシコ) 春学期～冬学期
週 1 回 30 分間
参加者 8 名(延べ人数)

グアダラハラ自治大学との協働セッション参加者募集！
—iCoToBa-UAG Japonés I 協働セッション—

日時：2022年8月9日(火)
9:00AM-9:50AM (50分)

学習した外国語を使って会話にチャレンジしよう！

内容：① 9:00-9:15 開会セッション
② 9:15-9:50 スペイン語セッション
どちらのセッションも日本人英語メキシコ人3人ずつ
(計4人)のグループで会話をします。
Microsoft teamsを覗いたオンラインセッション
申込み・問い合わせ：iCoToBa (多言語学習センター)
icotoba@foraichi-pu.ac.jp
申込期限：2月29日(月) 17:00

グアダラハラ自治大学(メキシコ)
8/9(火) 9:00-9:50 参加者 5 名

台湾で日本語を学ぶ大学生と交流しませんか？
東海大学日本語文化学科の大学生とのオンライン交流

台湾の大学生と「こぼれ(日本語)」について、話してみませんか？
東海大の学生は、「流行語を使っている?」「(使用)して使っている?」「(外)来語の印象は?」
「日本でどんな外国語が使われている?」...など、日本の大学主に、聞いてみたいことがあります。
日本語でのオンライン交流は勉めの参加者を募集します。台湾の様子も聞くことができます。

■使用言語
日本語(わかりやすい日本語を話してください。困ったら中国語や英語も可)

■活動概要
オンライン会議に3回参加して、インタビューに答えたりおしゃべりしたりします。
Zoom会議で、5-6名のグループで会話をします。

①第1回 オンライン全体会議
日時：11月26日(土)、28日(月)、12月1日(水)のうちいずれか1回
20時～20時30分
教員からの全体説明とグループメンバー紹介(次回以降実施予定)

②第2回 オンラインインタビュー(30～40分程度)
東海大学から東大生へのインタビュー
東海大学から東大生へのインタビュー(前回のやり取りの振り返りも行う)

③第3回 オンラインディスカッション(30～40分程度)
宿題への東大生の回答をネタに話し合う

★グループ交流会議の日程は、メンバー間で調整してください。
第2回：12月4日～12月の間で決定。第3回：12月11日～20日の間で決定
※この活動には東海大学の学生も参加予定です。
※参加費、距離やインターネットがあります。参加費を聞いてください。

■申し込み方法
申し込み先：右のフォームから申請してください
申し込み期限：2022年11月9日(水)
https://forms.office.com/r/vv3d07y7f2

■問い合わせ先
教 員：松本 友子(東海大学国際関係学部教授、台湾東海大学にて学外研究中)
ozumoh@foraichi-pu.ac.jp

日本專題交流会
Zoomで

参加費 無料 申込 無料

活動日程

第1回(2022/11/26)
1. 開会 2. 自己紹介
3. 自由 4. 閉会挨拶

第2回(2022/12/11)
1. 自由 2. 閉会挨拶

東海大学(台湾):11月26日～12月
20日の間に3回のオンライン会議
2023年1月5日にオンライン成果発表会を開催した。参加者 12 名

3 留学報告会

iCoToBa での留学報告会は、週に一度、昼休みに定期的に行っている。今年度は毎週金曜日に開催し、協定大学からの帰国者には報告を義務付けた。この報告会では、留学体験者が留学先での学修や異文化体験などの紹介を通して、自身の学びをふりかえること、そして、これから留学を考える学生と、留学準備や現地情報等を共有することを目的としている。

2022 年度は、前・後期あわせて 17 回開催した。参加者が多くない報告会もあったが、充実した内容の報告が多く、参加した学生からは大変参考になったとの声があった。今後も Web サイトや SNS 等の広報活動に力を入れ、より多くの学生が参加するように促したい。

2022 年度に開催した留学報告会の実施実績を表 8、表 9 に示す。

[表 8 2022 年度前期 留学報告会実施実績]

月日	留学先	国名	参加者数
5 月 13 日	ゲント大学	ベルギー	10
5 月 20 日	ブンペウ ファブラ大学	スペイン	6
5 月 27 日	リューネブルク大学	ドイツ	32
6 月 3 日	ブンペウ ファブラ大学	スペイン	15
6 月 17 日	オンライン留学 ポートランド州立大学 ウーロンゴン大学 アリカンテ大学	アメリカ オーストラリア スペイン	14
7 月 1 日	静宜大学	台湾	11
7 月 8 日	ケルン大学	ドイツ	22
7 回開催 参加者のべ数			110

[表 9 2022 年度後期 留学報告会実施実績]

月日	留学先	国名	参加者数
10 月 14 日	テュービンゲン大学	ドイツ	15
10 月 21 日	メモリアル大学	カナダ	10
11 月 4 日	セントラル・ランカシャー大学	イギリス	5
11 月 11 日	ウーロンゴン大学	オーストラリア	5
11 月 18 日	リール大学	フランス	6
11 月 25 日	サンティアゴ・デ・コンポステラ大学	スペイン	8
12 月 2 日	ライプツィヒ大学	ドイツ	9
12 月 9 日	トゥールーズ大学ジャン・ジョレス校	フランス	10
12 月 16 日	ア・コルーニャ大学 セビリヤ大学	スペイン	11

12月23日	ニューカッスル大学	イギリス	5
10回開催 参加者のべ数			84



[5月27日 リューネブルク大学]



[6月3日 プンペウ ファブラ大学]



[10月14日 テュービンゲン大学]



[10月21日 メモリアル大学]

4 グローバルセミナー

iCoToBa グローバルセミナーは、2017 年度から始めた取り組みである。本学の教員や外部有識者を招き、国内外のグローバルな文脈における研究や、研究に関連した活動、または、海外生活で得た経験などについて紹介し、議論できる場をつくることを目指したものである。本学のグローバル事業が全学化されたことにともない、学生と教職員が交流できる場として設定された。2022 年度は対面開催のセミナーを再開したが、引き続きオンラインでの配信を併用することによってより多くの学生や教職員が参加することができた。オンラインセミナーを視聴するための Office365Teams の Global/iCoToBa チームの参加登録者数は 318 人になった。また、愛知県立芸術大学の教員がスピーカーを担当した回は、愛知県立芸術大学デザイン棟プレゼンテーションルームからセミナーの様子をオンライン配信した。学部や大学間を超えて学びの場としての役割を果たしている。2022 年度に開催したグローバルセミナー一覧を表 10 に示す。(以下、講師の敬称略)

K-POP に見る多様性～韓国発アイドルグループのグローバル化～

講師:長沼 圭一(外国語学部ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)



現在世界中で注目を集めている K-POP について、いかにして今のようなグローバル化に至ったかについて時代をおって概観した。変化が起きるきっかけとなったのは1998年の日韓共同宣言であろう。これを機に韓国のポップカルチャーが日本に入ってくるようになり、2004年から『冬のソナタ』を筆頭にいわゆる韓流ドラマが人気を博した「第1次韓流ブーム」が起こる。2010年からは少女時代、KARA、東方神起など第2世代アイドル

の日本進出による K-POP ブームがわき起こり、これが「第2次韓流ブーム」と呼ばれるようになる。その後 K-POP の人気は下火になったかのように見えたが、日本人メンバーを含む TWICE のような第3世代の多国籍グループが次々と登場することによって再び日本でも K-POP が注目を集めるようになり、これが「第3次韓流ブーム」となる。現在次々とデビューしているグループは「第4世代アイドル」と呼ばれているが、ほとんどが多国籍グループだと言っても過言ではなく、日本人メンバーが含まれることはごく普通のことになっている。このように K-POP はグローバル化を遂げたが、果たして何をもって K-POP と呼ぶのかという根本的な部分が問われるようになってきているように思われる。

ガリシアってどんなとこ

講師:Jorge García Marín(協定大学サンティアゴ・デ・コンポステラ大学教員)



協定大学であるスペインのサンティアゴ・デ・コンポステラ大学の教員 Jorge García Marín 氏に、スペインのガリシア地方について、平易なスペイン語で紹介していただいた。スペイン語圏専攻の学生を中心に、スペインに留学を予定している人、スペインに興味がある人、スペイン語を学習中の人々の参加があり、和やかな雰囲気で行われた。

Music from the San Francisco Bay Area - History, Listening and Discussion 2

講師: Christopher Wyle (教養教育センター)

The San Francisco Bay Area in the U.S. has long been known for being a place where new ideas are born. For decades, the San Francisco area was home to some of the most creative and new music anywhere. In this talk the teacher, a Bay Area local, will introduce us to different bands that San Francisco gave birth to across different genres, such as rock, hip-hop, punk and soul music. We will listen and discuss about different musical groups as well as share our own opinions and favorite music as well as learning a little bit more about San Francisco's musical history.



The immigrants' image in cinema

講師: Ikhlass Chetouani (協定大学サンティアゴ・デ・コンポステラ大学)



Migration is one of the most prominent global issues, dominating public opinion and political discourses. The host countries' societies contribute to shaping this phenomenon's policies. So how is the image of the immigrants formed in these societies? And what is migration, and its causes? Where do immigrants come from, and what are their main destinations?

Media, in its diversity, is the most prominent source that shapes immigrants' image, and cinema is the most distinguished and influential media through which issues and topics can be presented, with various effects distinctive to cinema from other means. The power of image, sound, and acting are combined with significant additions such as soundtracks, decoration, dialogue, and the plot. How does cinema portray the image of immigrants, and does it contribute to the construction of negative stereotypes about them among members of the hosting societies, or is it a reflection of reality?

Examples from European and Japanese cinema.

教育現場で活躍するロボットの現状

講師:ジメネス フェリックス(情報科学部)

現在、製造や医療福祉など様々なところでロボットが実用化されている。その中でも新たな活躍の場として、教育現場が注目されている。教育現場で活用されるロボット(教育支援ロボット)は、当初、学校の先生のように授業を行うロボットが想定されていたが、家庭教師のようにロボットが学習者に個別指導することが最も効果的であることが研究事例により示された。そのため、近年では、一人の学習者に対して学習を支援する教師型ロボットや、一人の学習者と問題を解き合うパートナー型ロボットが提唱されている。本ジメネス研究室においても、学習者の困惑状態を推定しながら学習支援を提供する教師型ロボットや、発達障害グレーゾーン児童に勉強を教わるパートナー型ロボットの研究開発に取り組んでいる。教育支援ロボットは、従来の学習システムや画面エージェントを用いた学習方法に比べ、学習効果が高いと報告されている。しかしながら、国内において実用事例が極めて少ない。実用化に向けては実際に小中学校において長期的に実用実験でデータを収集する必要があると考える。



The Power of the Bicycle: The Miracle Machine

講師: Martin Baildon(教養教育センター)

The humble bicycle is indeed a master invention. Not only can this device offer cheap and easy transportation, but it can offer unrivalled solutions to many global and domestic problems. Benefits include significant protection from serious illness and sickness, increased life expectancy, the potential for enormous reductions in pollution, major decreases in traffic congestion and greater opportunities for ageing populations. It is not athletes or keen weekend cyclists who can enable such benefits, but the everyday rider using their bicycle for everyday uses.



Governments globally have started to increase investment in the promotion of cycling for both leisure and utilitarian activities. In Japan, the Government has already set guidelines to increase cycling which has resulted in many local governments producing their own guidelines and strategies to improve cycling facilities and infrastructure around their districts. Bicycle ownership per capita in Japan already outstrips many other countries, and trips undertaken by cycling constitutes over 12% of all trips; the third highest proportion globally. This sudden emphasis on bicycle travel stems from the many benefits cycling affords including decreased risks of contracting debilitating diseases, significant reductions in public medical care costs and reliance on long-term care, increased life satisfaction particularly in the elderly, enormous reductions in environment-damaging pollutants, and large decreases in traffic congestion. It is hoped themes presented through this seminar not only increase greater awareness of cycling and cycling infrastructure but perhaps even encourage greater bicycle use.

This seminar allowed me to present findings from my own research to both students and instructors at Aichi Prefectural University. The number of attendees and enthusiastic reaction during the question and answer session intimates this theme is not limited to cycling enthusiasts or academics but is accessible for anyone able to ride a bike. Attendees were diverse in age and gender and it was interesting that so many were willing to offer their opinions. Questions from attendees included worries over heat-stroke, topography and current rules and regulations of cycling in Japan. Several attendees were also interested in discussing their own experiences and sharing bicycles they use or are considering purchasing. It is hoped that participants gained a greater understanding of the benefits of cycling not just as a means of transport, but for all the advantages highlighted above. The positive response from this seminar increased my motivation for further research on this theme, including how local authorities and cities are implementing cycling infrastructure to their districts. I therefore hope to present these findings at Global Seminars in following semesters, knowing that it can reach such a diverse and enthusiastic audience.

エストニア芸術—ソビエト時代の風刺画とアニメーション

講師: 有持 旭 (愛知県立芸術大学美術学部デザイン・工芸科メディア映像専攻)



有持旭は美術作家であり歴史家でもあります。2012 年から 2 年間エストニア芸術アカデミーに客員研究員として所属していました。今年でエストニアとの関係は 10 年となり、6 月には新たな調査を現地で行ってきたばかりです。なぜ美術作家がエストニア芸術史の研究をすることになったのか、その経緯の他に、研究方法やエストニアのソビエト時代に制作された風刺画やアニメーション作品をご紹介します。

ます。なかでも、特に注目してほしい作家はプリート・パルンです。彼はソビエト時代に風刺画家や前衛芸術家、アニメーション監督として活動し、不条理でユーモアな世界を描いてきました。



ことばの不思議 —否定極性表現から見た日本語と世界の言語—

講師: 水谷 謙太 (外国語学部英米学科)

本セミナーでは、「1」を表す語句と **even** に相当する語句を組み合わせた場合、否定辞の存在を要求する否定極性表現になる事実が、英語や日本語だけでなく世界の様々な言語で観察されることを紹介した。さらに、この事実は含意関係に基づく命題の成立可能性という論理的な性質に着目することで説明可能であるとする分析を紹介した。その後、日本語の「すべて」を表す全称量化詞と対照主題を表す「は」を組み合わせた場合や、**even** に相当する「まで」と対照主題を表す「は」を組み合わせた場合も否定極性表現になることを指摘し、これらの表現が否定極性表現になる事実を明らかにすることで、否定極性表現に関する意味的普遍性の解明につながる可能性があることについて議論した。



Nordeste (ノルデスチ) – ブラジル北東部地方を知ろう

講師: メロ ワジソン (教養教育センター)



「ノルデスチ」とは、ブラジル北東部地方を指す言葉です。その言葉は、人により響きが違い、ある人は憧れや懐かしさ、ある人は軽蔑の意味を込めて語ります。

この地方は、ブラジルで最初にポルトガル人や他のヨーロッパ人に征服された地方であり、ブラジルの他の地方と違った独特の慣習や伝承を含む文化、料理、音楽、文学、魅力溢れる自然環境をもっています。一方、貧富格差が生み出す貧困問題や治安問題等の社会問題も多く見られます。発表者はこの地方にあるセアラ州で生まれ育った者であり、日本であまり知られていないその地方の魅力をいろいろ紹介しながら、上記のような社会問題についてお話しします。どの国でも良いところも悪いところもありますが、両方を知った上で、それでも好きだといえるのが大切です。この発表を通して、ブラジルの新たな面を知ることができ、国の多様性の大切さに気付き、その理解を深められたらと思います。

異文化をつなぐ通訳（者）：コミュニティ通訳の事例から

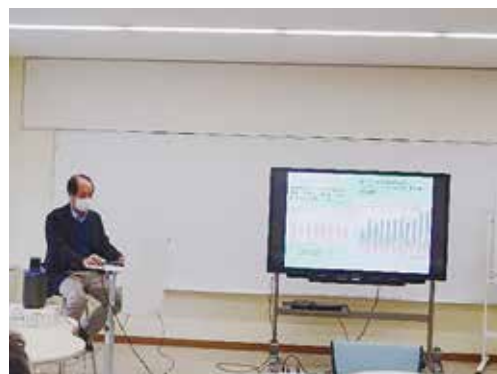
講師：吉田 理加（外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻）



「通訳者」といえば、「透明」な「異文化の架け橋」、または「ブラックボックス」や「必要悪」などと言われている。コミュニティ通訳は、社会に暮らす人々が言語の障壁なしに公的情報や生活に必要なサービスにアクセスを保障する助けとなるものである。通訳もコミュニケーション出来事であり、「言われたこと」と「なされたこと」の両方で意味が生起している。しかし、「言われたこと」に焦点化した通訳が求められる傾向があり、実際のコミュニケーションの現実には即していないため、正しい通訳を考える際に様々なジレンマが生じる。そのような事例をいくつか紹介した。正しい通訳を考える際、コンテキストの差異を埋めるような補償的訳出を目指すことが正しい通訳を実現するために必要不可欠であることを事例から考察した。

森林資源を用いた新たな健康づくりとしての「森林セラピー」への誘い

講師：小林 敏生（看護学部）



私は、これまで疾病の予防や健康増進の研究に取り組んできましたが、近年のコロナ禍においては、特にストレスを抱える人々の健康保持増進のために、オープンスペースである森林環境への滞在やリモートワークが健康に及ぼす効果について研究と実践を行っています。本セミナーでは、個人の健康増進ならびに地域の活性化を目的とした、森林資源を活用した「森林セラピー」による疾病予防や健康増進効果、さらに地域への波及効果について紹介しました。これまでに、森林環境への滞在がもたらす健康効果として、ストレスホルモンの減少、血圧の低下、抑うつ改善、自律神経バランスの改善、健康関連 QOL の上昇などが明らかとなって

います。コロナ禍で、自然環境下への滞在やワーケーションが心身の健康増進に繋がることで、職域と地域が連携した健康づくりの推進や地域の活性化にもつながると考えています。人の健康の保持増進や幸せづくりを考える際には、個人の健康行動の変容に加えて、観光や経済活動の推進、労働・居住環境の改善などの包括的な視点を持って地域全体の活性化を目指す、健康・しあわせの「まちづくり」を推進することが重要と思います。

儒生、葬式に出てみたり、見てみたり、考えてみたり

—やはり人は1人では死ねない—

講師：洲脇 武志(日本文化学部国語国文学科)



儒教の規定では父母が亡くなると子は三年(二十五ヶ月もしくは二十七ヶ月)の喪に服することになっていた。これは主に『論語』陽貨篇の孔子の発言に基づくものである。しかし、喪中は厳しい生活上の制限があり、完遂することは極めて困難であったため、多くの場合は經典を曲解することで社会生活への影響を抑えていた。しかし、西晋の武帝のように「皇帝としての職務」(公)よりも親への「孝」(私)を優先する人物もいた。このように葬喪儀礼は「理念と現実」や「公と私」が様々に表出するであり、それは近年実施されたエリザベス女王の国葬や安倍元総理の国葬からも看取できることを指摘した。また、葬喪儀礼における「公と私」の狭間で苦悩する遺族について、「象徴としてのお務めについての天皇陛下のおことば」・小説(重松清「タオル」)・魏の阮籍といった事例を取り上げて紹介した。

高齢者の下肢機能評価・改善システムを内蔵する体重計の開発

講師：慎 少帥(教育福祉学部社会福祉学科)

タニタが1992年、世界初の体重・体脂肪率計を開発してから約30年が経過し、次のステージとして、我々はタニタと共同で健常な高齢者の健康増進から要介護者の重度化防止まで幅広く対応する卓越した健康度評価・改善プログラム一体型の体重計開発に着手しています。最大努力による椅子立ち上がり動作時に得られる地面反力変数の有用性を検討してきました。この評価法の利点は、椅子立ち上がり動作を1回でも遂行できれば評価が可能であること、日常生活動作遂行中の筋力発揮を評価できること、測定機器の運搬が比較的容易であることに加え、地面反力計を用い力単位(kgf)により短時間で測定できることなどが挙げられます(辻ら、2013年)。



[表 10 2022 年度開催グローバルセミナー一覧]

月日	講 師	タイトル	参加者数
4/27	長沼 圭一 (外国語学部ヨーロッパ学科 フランス語圏専攻)	K-POP に見る多様性～韓国発アイドル グループのグローバル化～	32
5/13	Jorge García Marín (サンティアゴ・デ・コンポステラ大学)	ガリシアってどんなところ？	20
5/25	Christopher Wyle (教養教育センター)	Music from the San Francisco Bay Area —History, Listening and Discussion 2	10
6/1	Ikhlass Chetouani (サンティアゴ・デ・コンポステラ大学)	The Immigrants' Image in Cinema	33
6/15	ジメネス フェリックス (情報科学部情報科学科)	教育現場で活躍するロボットの現状	21
7/6	Martin Baidon (教養教育センター)	The Power of the Bicycle: The Miracle Machine	14
7/27	有持 旭 (愛知県立芸術大学美術学部 デザイン・工芸科メディア映像専攻)	エストニア芸術—ソビエト時代の風刺画と アニメーション	42
10/12	水谷 謙太 (外国語学部英米学科)	ことばの不思議 —否定極性表現から見た日本語と世界の 言語 —	24
11/2	メロ ワジソン (教養教育センター)	Nordeste (ノルデスチ) —ブラジル北東部 地方を知ろう	31
11/16	吉田 理加 (外国語学部ヨーロッパ学科 スペイン語圏専攻)	異文化をつなぐ通訳(者): コミュニティ通訳の事例から	36
11/30	小林 敏生 (看護学部看護学科)	森林資源を用いた新たな健康づくりとして の「森林セラピー」への誘い	39

12/7	洲脇 武志 (日本文化学部国語国文学科)	儒生、葬式に出てみたり、見てみたり、考 えてみたり —やはり人は1人では死ねない—	39
1/11	慎 少帥 (教育福祉学部社会福祉学科)	高齢者の下肢機能評価・改善システムを 内蔵する体重計の開発	12

5 iCoToBa のイベント

iCoToBa では、異文化理解および異文化交流の促進を目的に、さまざまなイベントを開催している。2022 年度は新型コロナウイルス感染症対策をしたうえで、対面でイベントを実施した。2022 年度に実施したイベントについて報告する。括弧内は報告者を示す。開催イベント一覧は以下表 11 に記す。

県大 2022 Piñata Party

(ダビッ・ラモス: グアダラハラ大学 交換留学生)

日時: 12 月 26 日 (月) 16 時半～18 時半まで

場所: iCoToBa

対象者: 県大生 (スペイン語圏専攻優先)、
留学生 20 人～25 人

活動内容: 「Posada」の説明 「Pedir Posada」の練習
「Pedir Posada」本番 「Piñata」を説明 「Piñata 作り」
「Piñata」を割る伝統的な晩ご飯、クリスマスの雰囲気を楽し
むためメキシコの伝統的な「Posada」を iCoToBa で行う。



【準備】

始めに自分で全部の企画を立案して、活動や必要なものを準備した。それから、真剣に企画を立ててポスターを作り、iCoToBa に提案して日時を確定した。

一番苦戦したのは、ピニエータ作りだった。あまり作った経験がなく間違いがあり、材料の準備不足という問題もあった。結局は 5 日で作り上げた。「Pedir Posada」の準備と全体のパワーポイントも作った。そのため、Word で伝統的な曲の歌詞を翻訳して、フリガナをつけた。ピニエータを完成させた後、買って来たお菓子を中に入れた。そして、ピニエータを吊るす棒を準備



しようとしたが棒が壊れて、別の方法にした。ピニャータをたたく棒は、留学生の持っていた竹刀にした。伝統的な料理の準備は3時間ぐらいで、パンと飲み物を作った。

【当日】



ピニャータを吊るす棒の問題があったので、5分遅れ、16時35分からイベントを始めた。5限の授業があったので最初は申し込んだ人の半分しかいなかった。まず、伝統的な音楽を流しながら「Posada」の説明をした。他国のクリスマスの違いを聞き、メキシコのクリスマスの特徴を強調した。それから、2つのグループに分かれて「Pedir Posada」の練習をした。その後、本番をした。1つ目のグループはiCoToBaの外で歌い、2つ目のグループはiCoToBaの中で歌った。次に、「Piñata」の作り方やたたき方などを説明した。5限が終わった県大生たちが来て、参加者は25人ぐらいになり、2個のピニャータを割り、みんなでお菓子を集めて楽しく過ごした。最後に、伝統的なメキシコパンと「Atole」を配った。

【うまくできなかったこと】

ピニャータ作りに時間がかかりすぎて、完成できるか困ったときもあった。作った経験がなくて、限られた時間で、ピニャータも少し大きすぎたと思う。企画をたてるまでに時間がかかり、計画が完成してから当日までは、たったの2週間しかなかった。最後まで重要なことを忘れていた。(特に、ピニャータを吊るす棒とピニャータをたたく棒のこと)もっとゆとりをもって計画していればよかったと思った。

Presentation - Current protests in Iran

(Mehrnoush Majdazari of the University of Tübingen, Germany)



On 12/5 and 12/19 I gave a presentation on the current social situation in Iran entitled “Liberation from Below – A View on the Current Protests in Iran from Japan”. The discussion part of the presentation was my favourite part as students and lecturers who were present share their thoughts on the term Jiyou (Jap.: freedom). I was very happy and relieved to hear that the participants understood the content, including the theoretical part, and became curious about Iran.



[2022 年 6 月 29 日 Card Game event]



[2022 年 7 月 4~15 日 セタデコレーション]



[2022 年 7 月 6 日 日仏交流会]



[2022 年 7 月 13 日 Farewell Party]



[2022 年 10 月 29 日
第 12 回レシテーション大会]



[2022 年 11 月 16 日 Welcome Party]

[表 11 2022 年度 iCoToBa 開催イベント一覧]

実施日	時間	イベント名	参加者数
4 月 13 日	12:15～	Welcome Week event	8
4 月 16 日	11:00～12:30	*フラップジャック オンライン料理体験&トーク	31
6 月 29 日	14:30～16:00	Card Game event	16
7 月 4～15 日	9:00～17:00	七夕デコレーション	86
7 月 6 日	12:00～14:20	日仏交流会	20
7 月 13 日	12:00～14:20	Farewell Party	26
10 月 29 日	10:40～11:10	第 12 回レシテーション大会	7
10 月 24 日 ～11 月 4 日	9:00～17:40	死者の日コンテスト	68
11 月 16 日	13:30～16:00	Welcome Party	65
12 月 14 日	13:00～16:00	日仏交流会	16
12 月 26 日	14:30～18:30	Piñata Party	32
1 月 11 日	16:15～18:00	Farewell Party	31

*オンラインで実施

6 外部・地域との連携事業

昨年度に続き、2022 年度も愛知県教育委員会との連携で、英語教育推進事業「探・県大スタディツアー」を実施した。内容は下記のとおりである。

探・県大スタディツアー

【目的】

県立高等学校に在籍する生徒が、愛知県立大学において、より高度な学びを体験するとともに、外国人留学生等との交流を通して、国際的な視野の涵養を図る。

【日程】

令和 4 年 9 月 17 日(土)午前の部(10:00～12:00)参加者:20 名

令和 4 年 9 月 17 日(土)午後の部(13:00～15:00)参加者:19 名

令和 4 年 9 月 24 日(土)午前の部(10:00～12:00)台風接近のため中止

令和 4 年 9 月 24 日(土)午後の部(13:00～15:00)台風接近のため中止

【当日のスケジュール】(各日程同一内容)

- ① 趣旨説明・諸注意(10 分)
- ② 模擬授業(60 分)
- ③ キャンパスツアー(動画上映 10 分)
- ④ 交流会(30 分)

【講師および本学参加学生】

講 師	Brett HACK	iCoToBa(多言語学習センター)准教授
講 師	Benjamin FILER	教養教育センター准教授
本学学生	西村 浩然	国際文化研究科 1 年
	清水 萌恵	外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻 4 年
	パーチュ アレクサンダー	ドイツ ライプツィヒ大学(交換留学生)
	トン ペイティン	台湾 静宜大学(交換留学生)



[2022 年 9 月 17 日探・県大スタディツアー]

7 広報活動

7.1 iCoToBa 公式 Web サイトでの発信

iCoToBa は、2013 年の開室にあわせ公式 Web サイトを開設し、iCoToBa の利用促進を目指して、さまざまな情報発信をしている。iCoToBa の公式 Web サイト「Pickup Information」と「新着情報」を定期的に更新し、イベントや講座情報などを広く発信した。更新日とタイトルを表 12 に示す。2022 年 4 月 1 日から 2023 年 2 月 1 日の発信件数は 47 件である(2023 年 2 月 1 日現在)。

[表12 2022年度iCoToBa公式Webサイトでの情報提供]

更新日	タイトル
2022.4.4	2022 年度前期 iCoToBa 講座の受講申込みについて
2022.4.7	iCoToBa Welcome Week について
2022.4.7	iContact の予約について
2022.4.13	iCoToBa Welcome Week 文化体験イベント参加者募集
2022.4.22	2022 年度 第 1 回グローバルセミナーの開催について
2022.4.25	メキシコ グアダラハラ大学とのオンライン会話クラブ参加者募集！(春学期)
2022.5.9	2022 年度 第 2 回グローバルセミナーの開催について
2022.5.10	ベトナム語講座・ウズベク語講座受講者募集
2022.5.11	留学報告会の開催について
2022.5.12	【 5 月 12 日(木)～ 】留学生 iContact 始まります！
2022.5.13	「食文化から学ぶ中国語講座」・「韓国朝鮮語超入門編」・「韓国朝鮮語初中級編」の受講者を募集します！
2022.5.19	2022 年度 第 3 回グローバルセミナーの開催について
2022.5.26	2022 年度 第 4 回グローバルセミナーの開催について
2022.5.27	留学生 iContact のフランス語が時間変更になりました
2022.6.2	留学生 iContact のスケジュールが新しくなりました
2022.6.3	2022 年度 第 5 回グローバルセミナーの開催について
2022.6.6	iContact 予約受付中！予約状況【6/6 現在】
2022.6.8	6/29(水)スタート！iCoToBa 講座水曜日 4 限「TOEIC クリニック ONLINE」受講者募集！
2022.6.16	6/17(金)留学報告会を開催します
2022.6.22	6/29(水) Card Game Party、7/6(水)フランス語交流会 参加者募集！
2022.6.23	2022 年度 第 6 回グローバルセミナーの開催について
2022.7.12	2022 年度 第 7 回グローバルセミナーの開催について
2022.7.12	グローバル実践教育プログラム成果発表会(2022 年 9 月卒業)の開催について
2022.7.21	2022 夏！iCoToBa サマープログラム「英語力強化集中講座」受講者募集について
2022.7.28	メキシコ グアダラハラ大学とのオンライン会話クラブ参加者募集！ (7/22 夏学期スタート)

更新日	タイトル
2022.8.3	2022 夏！iCoToBa サマープログラム「映画で英語を、英語で映画を」受講者募集！
2022.8.4	iCoToBa 夏季休暇閉室のお知らせ
2022.9.26	【10 月 10 日(月)スタート】2022 年度後期 iContact
2022.9.26	2022 年度後期 iCoToBa 講座の受講申込みについて
2022.9.29	2022 年度 第 8 回グローバルセミナーの開催について
2022.10.3	地域コミュニティ言語講座「ベトナム語」・「中国語」受講者募集！
2022.10.5	2022 年度後期留学報告会を開催します！
2022.10.5	全大学的メディアプロジェクト「愛県大史」デジタル編纂事業メンバー募集！
2022.10.13	「韓国朝鮮語(超入門編・初級会話編)」 「教育分野スペイン語」 「ポルトガル語初心者講座」受講者を募集します！
2022.10.13	10 月 17 日(月)から留学生 iContact (フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・韓国語)が始まります！
2022.10.21	メキシコグ アダラハラ大学とのオンライン会話クラブ参加者募集！(秋学期が始まりました)
2022.10.21	【台湾】東海大学日本語文化学科の大学生とのオンライン交流会参加者募集！
2022.10.24	2022 年度 第 9 回グローバルセミナーの開催について
2022.11.4	2022 年度 第 10 回グローバルセミナーの開催について
2022.11.7	iCoToBa TOEIC クリニック(単発講座)の開講について
2022.11.14	IELTS 講座始まります！
2022.11.24	2022 年度 第 11 回グローバルセミナーの開催について
2022.12.1	「iCoToBa Special Seminar」の開催について
2022.12.1	2022 年度 第 12 回グローバルセミナーの開催について
2022.12.19	2022 年度 第 13 回グローバルセミナーの開催について
2023.1.10	2023 春！iCoToBa スプリングプログラム「英語力強化集中講座」受講者の募集について
2023.1.18	メキシコグ アダラハラ大学:オンライン会話クラブ参加者募集！(冬学期が始まります)

7.2 SNS での発信(Facebook・Instagram)

2017 年 4 月に iCoToBa の Facebook「愛知県立大学 icotoba(あいことば)」を開設した。週に 1 回以上の更新を目標に、学生が読みやすいカジュアルな文章や写真を多くアップしている。また 2019 年度 6 月からは、Facebook と連動させて Instagram も開始し、認知度を高めるポスターの掲示や、ページへのアクションキャンペーンを行った。2023 年 2 月 1 日現在で Facebook のフォロワー数は 389 人、2022 年 4 月 1 日から 2023 年 2 月 1 日の発信件数は 51 件である。また、Instagram のフォロワー数は 301 人、2022 年 4 月 1 日から 2023 年 2 月 1 日の発信件数は 37 件である。Facebook および Instagram の記事の公開日および内容を表 13 と表 14 に示す(2023 年 2 月 1 日現在)。

[表13 2022年度 Facebookによる発信状況]

公開日	投稿内容
2022.4.6	iCoToB 前期講座広報
2022.4.6	iCoToBa Welcome Week 広報
2022.4.6	iContact 広報
2022.4.7	iCoToBa カウンセリング広報
2022.4.7	iCoToBa Welcome Week 文化体験イベント広報
2022.4.7	iCoToBa カウンセリング広報
2022.4.29	短期渡航準備講座「初めてのウズベク語講座」広報
2022.4.29	地域コミュニティ言語講座「初めてのベトナム語入門講座」広報
2022.5.20	留学体験発表会(スペイン プンペウ・ファブラ大学)広報
2022.5.20	留学体験発表会(ベルギー ゲント大学)報告
2022.5.23	2022 年度 第 3 回グローバルセミナー広報
2022.5.25	留学体験発表会(ドイツ リューネブルク大学)広報
2022.5.27	留学体験発表会(スペイン プンペウ・ファブラ大学)報告
2022.5.27	留学体験発表会(ドイツ リューネブルク大学)報告
2022.5.27	2022 年度 第 4 回グローバルセミナー広報
2022.6.2	留学生 iContact 広報
2022.6.3	留学体験発表会(スペイン プンペウ・ファブラ大学)広報
2022.6.13	留学体験発表会(スペイン プンペウ・ファブラ大学)報告
2022.6.13	2022 年度 第 5 回グローバルセミナー広報
2022.6.16	オンライン留学体験発表会(アメリカ ポートランド州立大学、オーストラリア ウーロンゴン大学、スペイン アリカンテ大学)広報
2022.6.17	日仏交流会広報
2022.6.21	CARD GAME PARTY 広報
2022.6.22	フェスタジュニーナ広報
2022.6.24	オンライン留学体験発表会(アメリカ ポートランド州立大学、オーストラリア ウーロンゴン大学、スペイン アリカンテ大学)報告
2022.7.1	留学体験発表会(台湾 静宜大学)広報
2022.7.7	留学体験発表会(台湾 静宜大学)報告
2022.7.7	留学体験発表会(ドイツ ケルン大学)広報
2022.7.13	留学体験発表会(ドイツ ケルン大学)報告
2022.7.20	グアダラハラ自治大学との協働セッション広報
2022.7.25	メキシコ グアダラハラ大学オンライン会話クラブ広報
2022.7.25	多言語競演レシテーション大会 2022 広報
2022.7.27	2022 年度 第 7 回グローバルセミナー広報
2022.8.25	The National Diet Library visit
2022.8.29	第 12 回学生英語スピーチコンテスト広報

公開日	投稿内容
2022.8.30	ドイツ語俳句コンテスト、第16回「ペアで紹介する日本文化英語プレゼンコンテスト」広報
2022.8.30	ドイツ語プレゼン大会、フランス語プレゼンテーション大会、英語スピーチコンテスト、中国語スピーチコンテスト広報
2022.11.7	10月 iCoToBa 利用者数
2022.11.14	IELTS 講座広報
2022.11.28	留学体験発表会(ドイツ テュービンゲン大学)報告
2022.11.29	教養教育科目「比較文化社会」展示広報
2022.11.30	iCoToBa Presents Special Seminar 広報
2022.12.2	留学体験発表会(カナダ メモリアル大学)報告
2022.12.6	留学体験発表会(フランス リール大学)報告
2022.12.16	留学体験発表会(スペイン サンティアゴ・デ・コンポステラ大学)報告
2022.12.28	留学体験発表会(ドイツ ライプツィヒ大学)報告
2022.12.28	留学体験発表会(フランス トゥールーズ大学ジャン・ジョレス校)報告
2022.12.28	留学体験発表会(スペイン ア・コルーニャ大学、セビリャ大学)報告
2022.12.28	留学体験発表会(イギリス ニューカッスル大学)報告
2023.1.17	学生成果物展示 広報
2023.1.17	学生成果物展示 広報
2023.1.27	日本語実践Ⅰ「私の国・私のルーツ」 広報

〔表14 2022年度 Instagramによる発信状況〕

公開日	投稿内容
2022.4.6	iCoToB 前期講座広報
2022.4.6	iCoToBa Welcome Week 広報
2022.4.6	iContact 広報
2022.4.7	iCoToBa カウンセリング広報
2022.4.7	iCoToBa Welcome Week 文化体験イベント広報
2022.4.7	iCoToBa カウンセリング広報
2022.4.18	iCoToBa Welcome Week 文化体験イベント報告
2022.4.29	短期渡航準備講座「初めてのウズベク語講座」広報
2022.4.29	地域コミュニティ言語講座「初めてのベトナム語入門講座」広報
2022.5.20	留学体験発表会(スペイン プンペウ・ファブラ大学)広報
2022.5.23	2022年度 第3回グローバルセミナー広報
2022.5.25	留学体験発表会(ドイツ リューネブルク大学)広報
2022.5.27	2022年度 第4回グローバルセミナー広報
2022.6.2	留学生 iContact 広報
2022.6.3	留学体験発表会(スペイン プンペウ・ファブラ大学)広報

公開日	投稿内容
2022.6.13	2022 年度 第 5 回グローバルセミナー広報
2022.6.16	オンライン留学体験発表会(アメリカ ポートランド州立大学、オーストラリア ウーロンゴン大学、スペイン アリカンテ大学)広報
2022.6.17	日仏交流会広報
2022.6.21	CARD GAME PARTY 広報
2022.6.22	フェスタジュニーナ広報
2022.7.1	留学体験発表会(台湾 静宜大学)広報
2022.7.7	留学体験発表会(ドイツ ケルン大学)広報
2022.7.20	グアダラハラ自治大学との協働セッション広報
2022.7.25	メキシコ グアダラハラ大学オンライン会話クラブ広報
2022.7.25	多言語競演レシテーション大会 2022 広報
2022.7.27	2022 年度 第 7 回グローバルセミナー広報
2022.8.25	The National Diet Library visit
2022.8.29	第 12 回学生英語スピーチコンテスト広報
2022.8.30	ドイツ語俳句コンテスト、第 16 回「ペアで紹介する日本文化英語プレゼンコンテスト」広報
2022.8.30	ドイツ語プレゼン大会、フランス語プレゼンテーション大会、英語スピーチコンテスト、中国語スピーチコンテスト広報
2022.11.7	10 月 iCoToBa 利用者数
2022.11.14	IELTS 講座広報
2022.11.29	教養教育科目「比較文化社会」展示広報
2022.11.30	iCoToBa Presents Special Seminar 広報
2023.1.17	学生成果物展示 広報
2023.1.17	学生成果物展示 広報
2023.1.27	日本語実践 I「私の国・私のルーツ」 広報

8 iCoToBa 学部・学科別利用者一覧

(2022 年 4 月～2023 年 1 月)

2022 年 4 月から 2023 年 1 月までの iCoToBa 利用者一覧を表 15、表 16 に示す。

[表 15 iCoToBa 利用状況(外国語学部生)]

入学年度	外国語学部						
	英米	フランス	スペイン	ドイツ	中国	国際関係	計
2022	23	7	16	36	73	180	335
2021	67	71	39	14	3	200	394
2020	31	13	40	19	71	8	182
2019	8	0	12	0	0	14	34
2018 以前	9	0	69	16	1	5	100
計	138	91	176	85	148	407	1,045

(人数はのべ数)

[表 16 iCoToBa 利用状況(外国語学部以外の学生)]

入学年度	日本文化学部		教育福祉学部		看護学部	情報科学部	大学院	※ 交換留学生	芸大	計
	国語 国文	歴史 文化	教育 発達	社会 福祉						
2022	2	61	15	43	23	1	6	25	4	180
2021	0	0	10	0	0	0	2	12	0	24
2020	1	69	5	0	0	10	0	0	0	85
2019	0	4	0	0	3	3	0	0	0	10
2018 以前	0	0	0	0	0	0	0	0	11	26
計	3	149	30	43	26	14	8	37	15	325

※海外学術交流協定大学からの特別聴講学生を指す (人数はのべ数)

9 グローバル実践教育推進室会議

2022 年度のグローバル実践教育推進室会議開催一覧を以下、表 17 に示す。

[表 17 2022 年度グローバル実践教育推進室会議開催一覧]

回	開催日	主たる審議・報告事項
第 1 回	5 月 18 日	グローバル実践教育推進室名簿について 2022 年度グローバル実践教育推進室事業内容(案) グローバル実践教育プログラム修了認定スケジュール グローバル実践教育プログラム「海外協定大学修得科目 (外国語学部)」について 「グローバル実践教育プログラム履修規程」別表 2 の改正 について 2022 年度前期 iCoToBa 講座開講について 東海東京財団の助成金執行結果 2022 年度前期 iCoToBa 講座開講状況 2022 年度前期 iContact 実施について 2022 年度グローバルセミナースケジュール(案)
第 2 回	9 月 14 日	2022 年度 9 月卒業生グローバル実践教育プログラム修了 証の発行について 2022 年度東海東京財団助成金の使途について 2022 年度後期 iCoToBa 開講科目の時間割について 2022 年度 iCoToBa 講座開講予定について 愛知県教育委員会との連携事業について 規程の改正について(第 4 条:副室長等について) グローバルセミナーの講師選出とスケジュール 2022 年度 iCoToBa サマープログラム 2022 年度前期 iCoToBa 地域コミュニティ言語講座受講状 況について 2022 年度前期留学生 iContact 実施状況について 2022 年度前期 iCoToBa 授業アンケート
第 3 回	1 月 16 日	2023 年度 iCoToBa 週間講座非常勤委嘱について 2023 年度地域コミュニティ言語講座・検定試験対策講座 開講案について iCoToBa Nexus プロジェクトについて 規程改正についての意見聴取結果 2023 年度「グローバル実践教育プログラム」修了に係る代 替科目での履修について

		2022 年度後期 iCoToBa 講座受講状況 2022 年度後期 iContact 実施状況 2022 年度グローバルセミナー実施状況
--	--	---

10 グローバル実践教育推進室

2022 年度のグローバル実践教育推進室室員および事務担当者は以下のとおりである。

室長	梶原 克教(教養教育センター長、英米学科)
副室長	高阪 香津美(国際関係学科)
室員	
外国語学部	水谷 謙太(英米学科)
日本文化学部	井戸 聡(歴史文化学科)
教育福祉学部	橋本 明(社会福祉学科)
看護学部	片岡 由美子(看護学科)
情報科学部	神谷 幸宏(情報科学科)
グローバル実践教育推進室	ブレット ハック(グローバル実践教育推進室・iCoToBa)
学務部部長	吉岡 主税
学務課課長	阿喰 悟
担当事務職員	水野 淑子(グローバル実践教育推進室・iCoToBa) 秋本 美里(グローバル実践教育推進室・iCoToBa)

iCoToBa 年報 第 10 号

グローバル実践教育推進室年報

2023（令和 5）年 3 月発行

発行：愛知県立大学 iCoToBa（多言語学習センター）
〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522-3 E 棟 2 階
Tel: 0561-76-8833 Fax: 0561-64-1107
e-mail: icotoba@for.aichi-pu.ac.jp
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/>

印刷 株式会社 あるむ

iCoToBa
Annual Report
Aichi Prefectural University

iCoToBaは東海東京財団の助成金を得て、運営しています